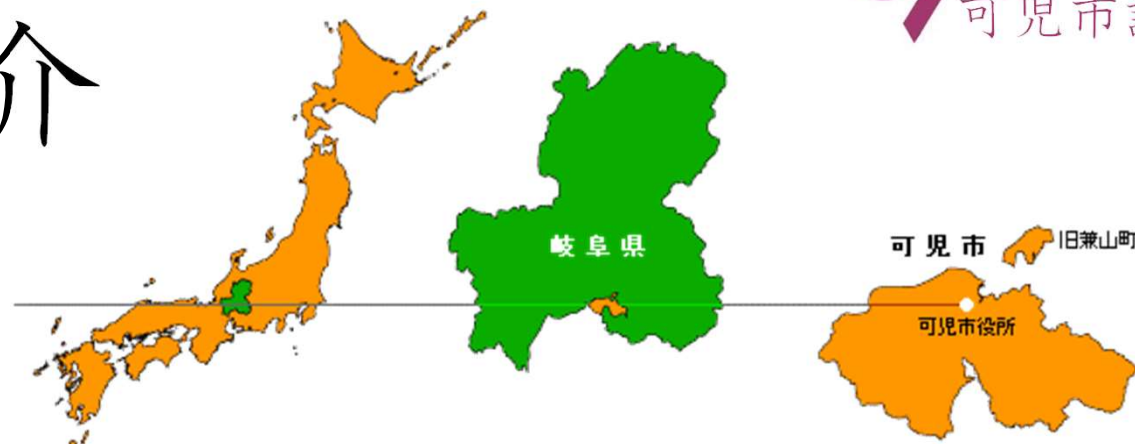


かに 可児市の紹介

人口 100,383人

世帯 44,025世帯

令和5年5月1日現在



世界一のバラ園

ぎふワールド・ローズガーデン



美濃桃山陶の聖地

信長・秀吉時代の茶の湯文化を牽引



「志野呼継ぎ茶碗」

明智光秀・森蘭丸の所縁の地

明智城址・森蘭丸の甲冑・国史跡美濃金山城跡





あけちのしょう

明智荘に広がるバラの園

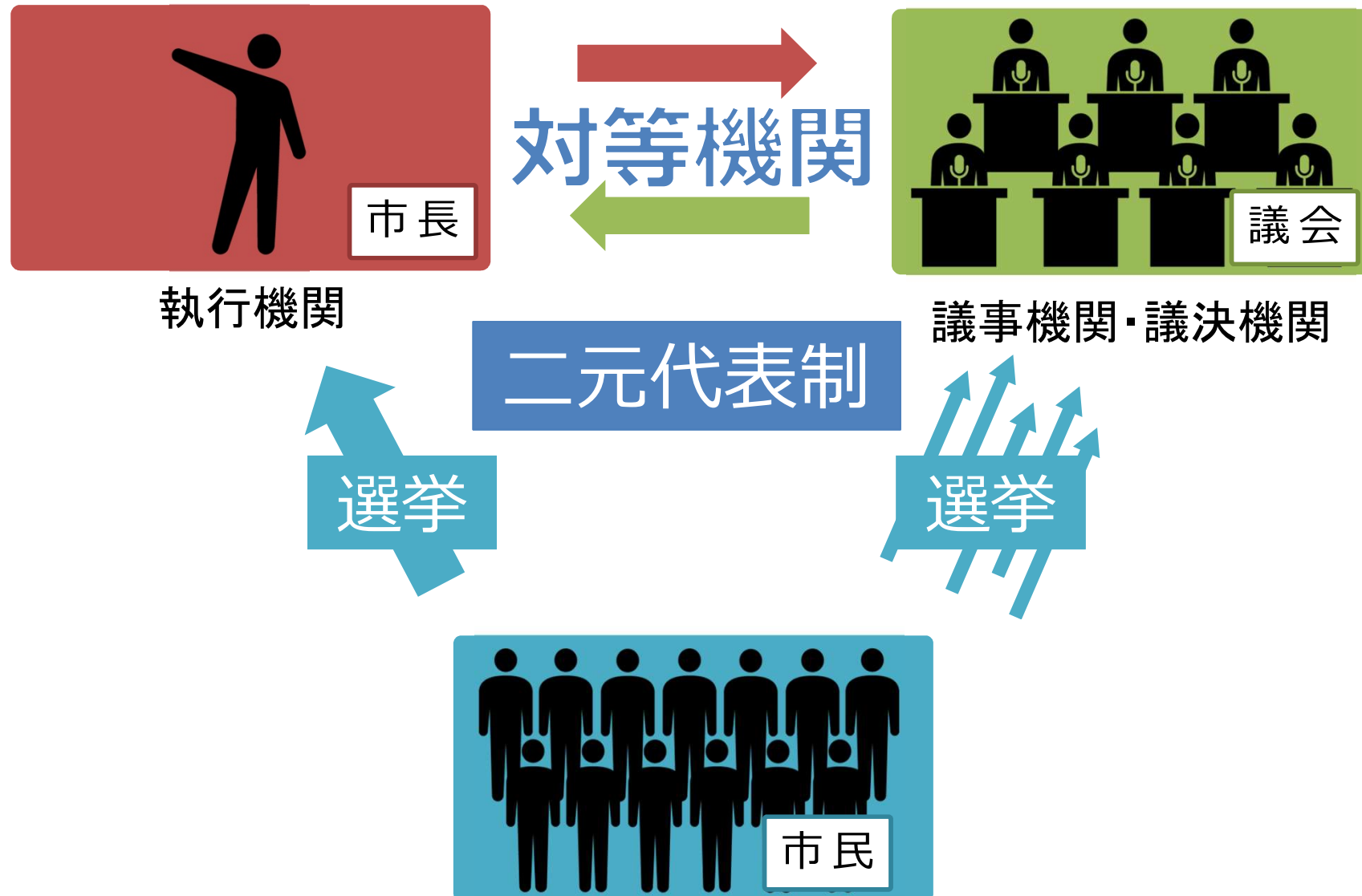
未来への挑戦

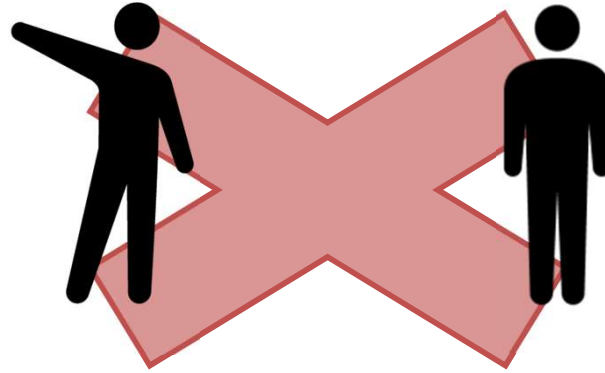


未来の子ども達に明るい時代を残すために

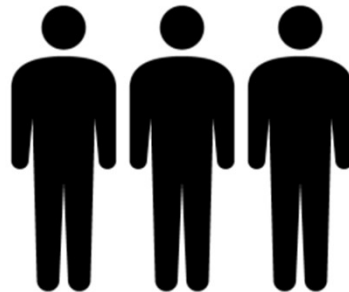
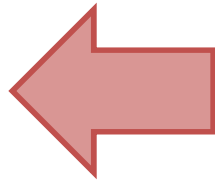
地方議会の役割とは

議会と市長の関係（二元代表制）





「議員は代理でなく代表」



- ・ 深まること「深化」
- ・ 変わること「変化」

「丁寧な議会審議」～熟議型議会～こそ
が住民投票では代替できない議会の機能

市長（執行部）の政策・施策（案）

必ずしも市民の声と一致していない

市民の声

市民の声を反映



議会の提言・修正により
議案成立！

市民への説明責任

議会改革の歩み

～いろいろな事業に取り組んでできました～

バラのまちをPR



毎年6月定例会を「バラ議会」とする決議

可児市議会の議会改革

- H17.6 一問一答・対面方式の導入
- H19.9 費用弁償の廃止
- H20.7 名城大学都市情報学部昇ゼミへの参加(大学との連携)
- H20.8 議長交際費、政務調査費の公開(ホームページ、議会だより)
- H21.5 議員の活動範囲についてとりまとめ
- H21.8 正副議長選挙における立候補制度の導入
- H23.2 「議会改革のためのアンケート調査」を実施**
- H23.9 議会基本条例特別委員会の設置(H25.3で廃止)
- H23.10 サイボウズライブ(グループウェア)を活用した議員間の意見交換と資料提供
- H24.2 第1回議会報告会の実施 ～ 毎年実施
- H24.6 本会議インターネット配信開始(YouTube)
- H24.6 予算決算委員会を設置し審査を実施
- H24.10 議会基本条例(案)パブリックコメントおよび市民説明会の実施
- H24.12 議会基本条例の制定(施行はH25.4～)
- H25.4 議会基本条例の施行
- H25.4 グーグルカレンダーを利用した議会予定の公表
- H25.8 議会フェイスブックページの開設
- H25.8 議会ホームページの全面更新
- H25.8 政治倫理規定の制定
- H25.8 委員会会議録のインターネット公開開始
- H25.12 委員会のインターネット配信開始(YouTube)
- H26.2 高校生議会の開催(地域課題解決型キャリア教育支援事業)**
- H26.7 地域課題懇談会の開催(地域課題解決型キャリア教育支援事業/可児医師会協力)**
- H26.7 議会提案の 空き家等の適正管理に関する条例(案)のパブリックコメント実施
- H26.8 議会提案による空き家等の適正管理に関する条例制定
- H27.2 高校生議会の開催(地域課題解決型キャリア教育支援事業)
- H27.5 議会のトビラ発行(議会だよりリニューアル)
- H27.6 地域課題懇談会の開催(可児金融協会共催)
- H27.12 地域課題懇談会出前講座(18歳選挙権)の開催

- H28.1 「第2回議会改革のためのアンケート調査」を実施
- H28.2 高校生議会の開催(地域課題解決型キャリア教育支援事業)
- H28.3 **可児高校模擬選挙**
(候補者を選ぶための600人によるグループディスカッションと投票)
- H28.7 地域課題懇談会の開催(可児商工会議所共催)
- H28.8 ママさん議会の開催**
- H29.2 高校生議会(可児市の課題をテーマ/岐阜医療科学大学協力)
- H29.7 地域課題懇談会(可児市の魅力等をテーマ/可児商工会議所協力)
- H29.8 正副議長の立候補所信表明を議場で行う(以後毎年)
- H29.8 可児市議会BCPの策定
- H29.9 委員会代表質問の開始**
- H29.11 可児高校模擬選挙 (600人によるグループディスカッションと投票)
- H30.2 高校生議会(投票率向上のための方策等/市選挙管理委員会協力)
- H30.8 地域課題懇談会
(若い世代が主役のまちづくりをテーマ/可児青年会議所協力)
- H31.1 子育て世代との意見交換会
- H31.2 高校生議会(NHK大河ドラマを活用した可児のPR)
- R1.10 可児高校模擬選挙
- R2.2 高校生議会(各テーマで意見交換・発表後、意見書の提案・採択)
- R2.7 議会BCPのコロナウイルス感染症に対応するための改訂
- R2.9 オンラインを使ったBCPの対策会議の実施
- R2.9 コロナ差別を許さない可児市議会緊急メッセージ
- R2.11 オンラインを活用した議会報告会の実施
- R3.3 「第3回議会改革のためのアンケート調査」を実施
- R3.11 可児高校模擬選挙
- R4.3 高校生議会(活動報告・模擬選挙マニフェストから市への提案)
- R4.5 完全オンラインによる 議会報告会(分科会含む)の実施
- R4.11 対面式とオンラインを併用したハイブリット議会報告会の実施
- R5.3 高校生議会(活動報告、市への提案)

市民に信頼される議会へ

大学との連携

目的：議員の資質の向上を図るため

開始：平成20年7月15日～

参加：議員11名

費用：政務活動費から支出

内容：名城大学都市情報学部 昇秀樹教授ゼミに参加し、地方自治や時事問題について意見交換を行い、知見を深めている。

状況：毎月1回（定例会中除く）

その他：**議会報告会に昇秀樹教授とゼミ所属大学生に参加**してもらっている。
また、ゼミへの参加が**専門的知見の活用に繋がっている**。



昇ゼミの様子



昇教授

議会報告会の様子

議会改革のための市民アンケート

(第1回:平成23年2月実施)

目的: 市議会の現状を調査するため

対象: 20歳以上の市民2,000人

主体: 議会基本条例調査研究プロジェクトチーム (有志議員)

予算: 政務調査費 (全議員が支出)

作業: 質問選定から封入・郵送、集計・分析に至るまで全て議員が実施

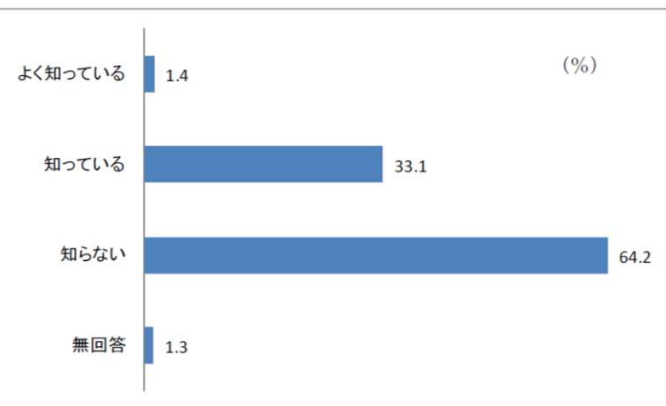
結果:

- ・ 回収数は810件、**回収率は40.6%**
- ・ 市議会に関心がない 36.7%
- ・ **議員の活動内容を知らない 64.2%**
- ・ **市民の声が市議会に反映されていると感じている 6.4%**

⇒**厳しい現状と議会改革を進める必要性を再認識**

問 11 あなたは市議会議員の活動内容をご存じですか。(ひとつだけ○)

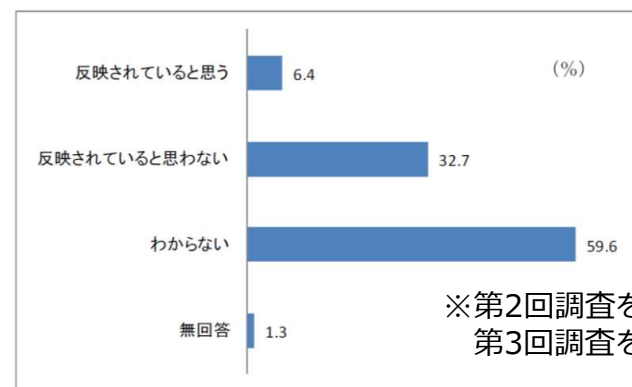
「知らない」が64.2%と最も高く、20歳代では8割以上、50歳代で約5割が回答している。
「市議会に関心がある」と回答した中でも、29.4%が「活動内容を知らない」と回答している。



問 12 あなたの意見や、市民の声が市議会に反映されていると思いますか。(ひとつだけ○)

(ひとつだけ○)

「わからない」が全体の約6割を占めている。
「市議会に関心がある」と回答した中でも、約半数が「反映されていると思わない」と回答している。



※第2回調査を平成28年、
第3回調査を令和3年に実施

民意と市議会

アンケートで浮き彫り 隔たり大

可児



七会派のうち六会派の議員 八百十人が回答を寄せた。十一人が参加した議会基本条例調査研究プロジェクトチーム（小村昌弘リーダー）が二月に実施。二十歳以上の市民二千人を無作為で選り、

市民の声反映 6%

活動知らない 64%

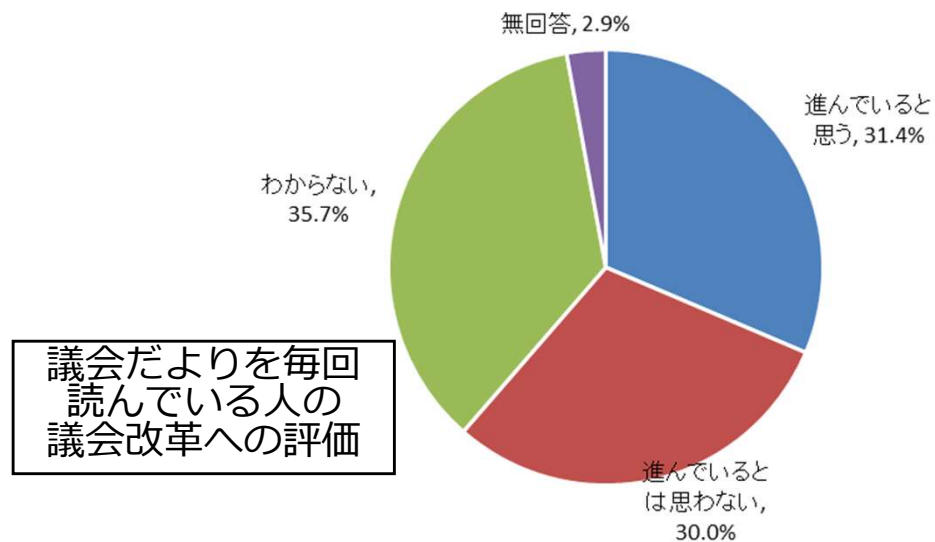
可児市議会有志が行った議会改革のためのアンケート結果が九日公表された。「活動内容を知らない」は64%、「市民の声を反映している」は6%。市議会が有権者から遠い存在である実態が浮き彫りになった。可児慶志議長は「市民が求める議員像と現状の議会機能にミスマッチがある」と認め、改革に向け議論を深める方針を示した。
(斉藤明彦)

改革の方向は「報酬見直し」「市民との意見交換会の開催」「定数見直し」の順に多く、自由意見では「顔が見えない」「政策立案力が低い」「報酬や定数は仕事ぶりで判断したい」などの声もあった。チームサブリダーの川上文浩議員は「議会の発信力が弱いということ。報酬や定数の根拠が今後、必要になる」と話した。同市議会では九月に特別委員会を設け、指摘された課題を協議しながら改革と議会基本条例づくりに取り組む予定。アンケート結果を発表する小村昌弘リーダーから「可児市役所で

可児市議会は9日、市民を対象にした議会改革のためのアンケート調査結果を公表した。市議会の活動内容を知っているかの問いには64・2%が「知らない」と答えた。また、51・9%が「市議会の改革が必要」とし、具体的には報酬や定数の見直しのほか市民との意見交換が必要とする回答が多かった。調査は、議長の諮問による議員有志の議会基本条例調査研究プロジェクトチームが、市議会の現状と課題を探るため実施。無作為に抽出した有権者2千人に調査票を郵送、810人から回収した。議員定数の22人については、「多い」

可児市議会 市民にアンケート

「活動知らない」 38・3%、「分からぬ」35・6%、「適当」23・3%となった。月額40万円の議員報酬については「多い」43・6%、「適当」31・2%だった。同チームは、議会基本条例特別委員会の設置や議員定数、報酬の見直しなどを求める提言書をまとめた。現在の市議は10日に任期満了を迎えるため、条例制定などの具体的な動きは改選後の議員に委ねられる。調査結果は10日付の市議会だよりに掲載したほか、議会事務局や連絡所などで見ることが出来る。
(広瀬丈士)



▶ 議会改革について

議会だよりを「毎回読んでいる」人の31.4%が「進んでいる」と回答し、「進んでいるとは思わない」より多くなっています。

▶ 今後の議会に対して

今後の可児市議会が取り組むべき課題は、「**市民の意見を聴く意見交換会の充実**」が44.9%と最も高く、続いて「**議員の資質向上**」が、44.2%となっています。前回と比較して「議員定数・報酬の見直し」が約8ポイント減少しています。

「議会の見える化」の推進

① 更なる情報公開の徹底

② 「議会だより」を軸としたわかりやすい広報の展開、市民の意見を聴く意見交換会の充実

H28.5中日新聞

市議会に
「関心がない」

- | | |
|--------|---------|
| ①H23調査 | 36.7% |
| ②H28調査 | 10.1% |
| | (△26.6) |
| ③R3調査 | 14.4% |
| | (+4.3) |

「関心ない」大幅減少

可児市議会は、議会改革に向けた市民アンケート結果を公表した。市議会への関心の有無を問う質問で「関心がない」と答えた人の割合は10・1％と、初めて行った二〇一一年の前回から26・8％減少した。今回は二十歳以上が対象だったが、今夏の参院選から選挙権年齢が引き下げられることを踏まえ、新たに十八歳以上を対象とした。

（神谷慶）

調査は一月、二千人は22・8割で、前回の無作為に選んで調査49・5割から大幅に縮票を郵送し、八百四人まった。市議会は「こから回答を得た。前回れまでの取り組みで、調査結果を基に進め無関心層を減少する効果が発揮された」としてきた議会報告会や高校生議会の開催、「市ながらも、積極的な開議会だより」の刷新、心を持つには至ってい

高校生議会
報告会など
取り組みに一定の効果

本会議や委員会のネット配信開始といった改革の効果を検証し、逆に調査票を送ったところ、十一人から回答が

市議会に「関心があった」「関心がある」のは全体で12・3%と答えた人はいな
いで、前回比0・3%上がったが、「関心がな
減とほぼ横ばい。「関心」割合は18・2%
心がない」と答えた人で、二十代より9・7
の割合が27・9%と最も少なかった。

高の二十代と、5・1 そのうち「関心がな
%で最低の七十代の差 い」と答えた女性一人

が、自記述欄に意見 査結果の概要は、一日を寄せた。女性性は「議 発行の市議会だより」に 員の方々の名前は一人 掲載した。

17日から報告会云

市内4カ所で

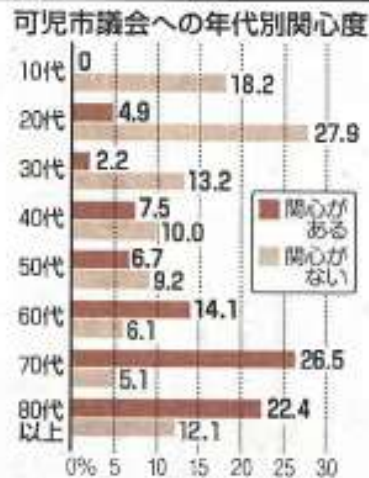
ろか知りません。情報が入ってこないことが問題なので、若者の生活スタイルに溶け込んだ情報発信が必要」と促す。

日程は、十七日午後
市議会に関する情報 七時から平牧公民館
源は、「市議会だよ(二野)、十八日午後七

時から広見公民館へと
りヒア(広見)、二十二
日午前十時から土田公
民館(土田)、同日午後
二時から春日公民館
(矢戸)。一時間半を想
定している。

た。調査結果を取りま
とめた議会改革特別委
員会の川上文浩委員長
は「市議会たよりを使
った広報活動をゼロペ
ースで検討し、よりわ
かりやすくする必要が
ある」と指摘した。調

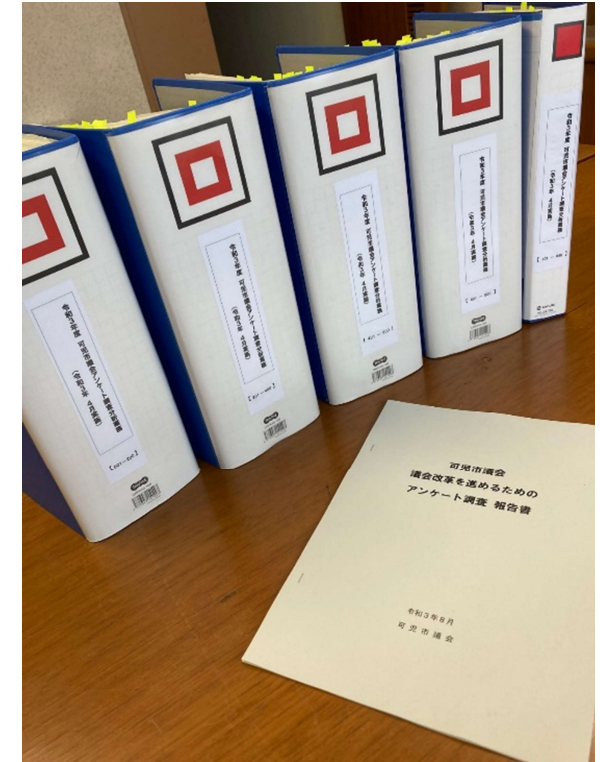
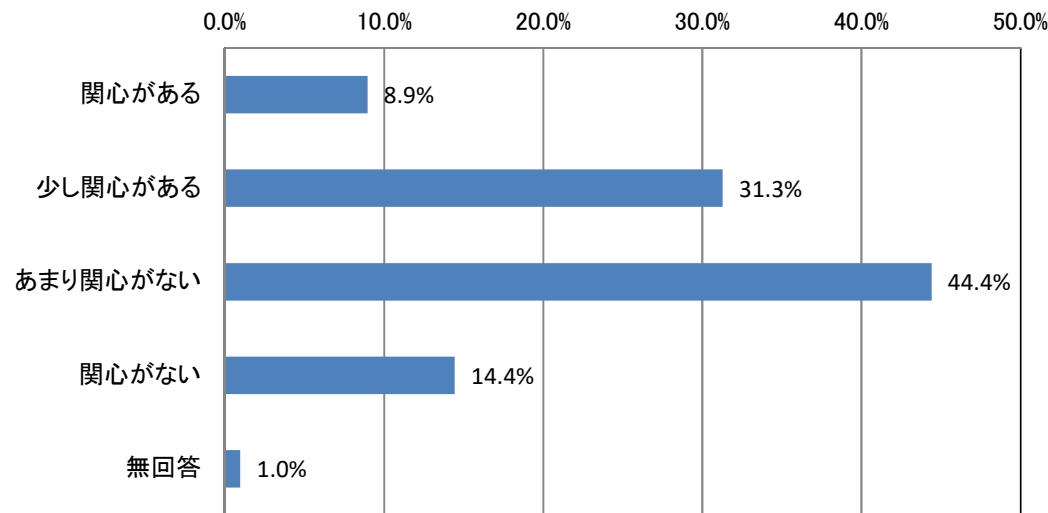
各会場とも市議十二
人が出席。本年度予算
審査の説明と市議会が
実施したアンケート結
果の報告、班ごとの意
見交換を行う。市議会
事務局 0574(62)



議会改革のための 市民アンケート

(第3回:令和3年3月実施)

▶あなたは市議会に関心がありますか



▶議会改革を進めるために取り組むべき課題は何か（複数回答）

「**市民の意見を聴く機会の充実**」（49.5% 前回44.9%）、「**議員の資質向上**」（38.7% 前回44.2%）は、前回調査と同様 高くなっています。

それに加えて「**各種媒体を活用した情報発信**」が43.7%（前回インターネットの活用など17.7%）と**急増**しています。

「市民の意見を聴く機会の充実」や「各種媒体を活用した情報発信」においては、特に10歳代でその傾向が高くなっています。

⇒R4.11可児市議会 公式Instagramの開始など各種媒体で議会活動を発信

議会改革 市民アンケートの成果

- アンケート回収率 40.6%→40.2%→42.0% とほぼ横ばい
 - 議会への関心度：関心がある＋少し関心がある：61%→49.2%→40.2% と減少傾向
 - アンケート結果からみる議会改革を進めるための課題 1・2位：「市民の意見を聴く機会の充実」「各種媒体を活用した情報発信」⇒**広報広聴機能のさらなる充実**
 - “ ” 課題 3～5位：「議員の資質向上」「議員定数・議員報酬の見直し」「議会が政策提言や政策立案する機能の強化」
⇒**議員の資質向上、議会機能の充実。議会活動・議員活動の見える化**
- ◆ 可児市議会では若い世代との交流や予算決算審査サイクルの確立、委員会代表質問など率先して議会改革を行ってきているが、議会改革に関する市民の認知度は低く（「わからない」67.9%）、議会に対する市民の関心度も低下傾向が続いている。**アンケートの実施により、こういった議会の認識と市民意識との差など現状を知ること**で、**真に市民から信頼される議会となるために取り組むべき課題を改めて認識することができる。**

議論の充実

本会議における一般質問および議案質疑は、論点や争点を明確にし、執行機関や傍聴者にわかりやすくするため、下記の取り組みを実施している。

▼ 一般質問・議案質疑

一問一答方式と一括質問一括答弁方式の選択方式（再質問からは一問一答）

→通告時に議員が選択することとしている。大項目（議案）ごとの質問項目の多寡などで使い分けられるようにしている。

▼ 反問権

議員の質疑・質問に対し、執行機関が議長又は委員長の許可でその根拠や理由を確認したり、論点を明確にするために反問の権利を保障している。

▼ 自由討議

本会議および委員会で自由討議ができるよう規定している。

▼ 議場モニター（スクリーン）

議場にモニターを設置し、パソコンを活用した一般質問ができる。



ICTの活用

- 目的：
- ・議員相互の意見交換のため
 - ・事前調整を活発に行うため
 - ・資料の確認・配布を円滑に行うため

ツール： 議会掲示板（議会HPを活用）

- 効果：
- ・インターネット上で資料確認ができるため、**資料確認が迅速**にでき、**資料内容の改善を事前に行う**ことができた。
 - ・**委員相互の意見交換や認識を深めてから委員会に臨む**ことができた。



The screenshot shows the homepage of the Gifu Kani City Council Groupware. The header includes the council's name and navigation links. The main content area is titled "「グループ掲示板」の一覧" (Overview of Group Bulletin Boards). It lists several bulletin boards with their respective topics, posts, and last update times.

掲示板	トピック	投稿	経過時間
委員会等のテスト掲示板です。	4	17	1 週、5 日前
議会	4	9	1 日、14 時間前
総務企画委員会	0	0	トピックがありません
建設市民委員会	0	0	トピックがありません



The screenshot shows the bulletin board interface for the Gifu Kani City Council. It includes a search bar, a list of bulletin boards, and a detailed view of a specific bulletin board. The detailed view shows a list of topics with their respective participants, posts, and last update times.

トピック	参加者	投稿	経過時間
F M ららの番組について	1	1	1 ヶ月前
議会だより72号の最終原稿について	1	1	1 ヶ月、1 週間前

議員研修の充実

目的：議員の資質の向上を図るため

根拠：可児市議会基本条例第14条第1項（議員研修の充実強化）

状況：平成26年 2月12日 予算審査について 元廿日市副市長 川本達志 氏
平成26年 8月27日 決算審査について 元廿日市副市長 川本達志 氏
平成26年11月10日 公共施設再配置について 秦野市役所 志村高史 氏
平成28年 1月28日 地方創生時代が求める議会とは 早稲田大学 北川正恭 氏
平成28年 7月 5日 一般質問について 龍谷大学政策学部 土山希美枝 氏
平成29年 1月25日 議員定数・報酬について 山梨学院大学 江藤俊昭 氏
平成30年 2月 2日 これからの大学と地域との連携 立命館総長 吉田美喜夫 氏
平成31年 3月25日 議会活動の点検・評価を考える 法政大学 廣瀬克哉 氏
令和 2年 1月16日 議会改革に必要なものはなにか 福知山公立大学 杉岡秀紀 氏
令和 2年10月30日 再生可能エネルギーの現状と課題 中部経済産業局



一般質問研修



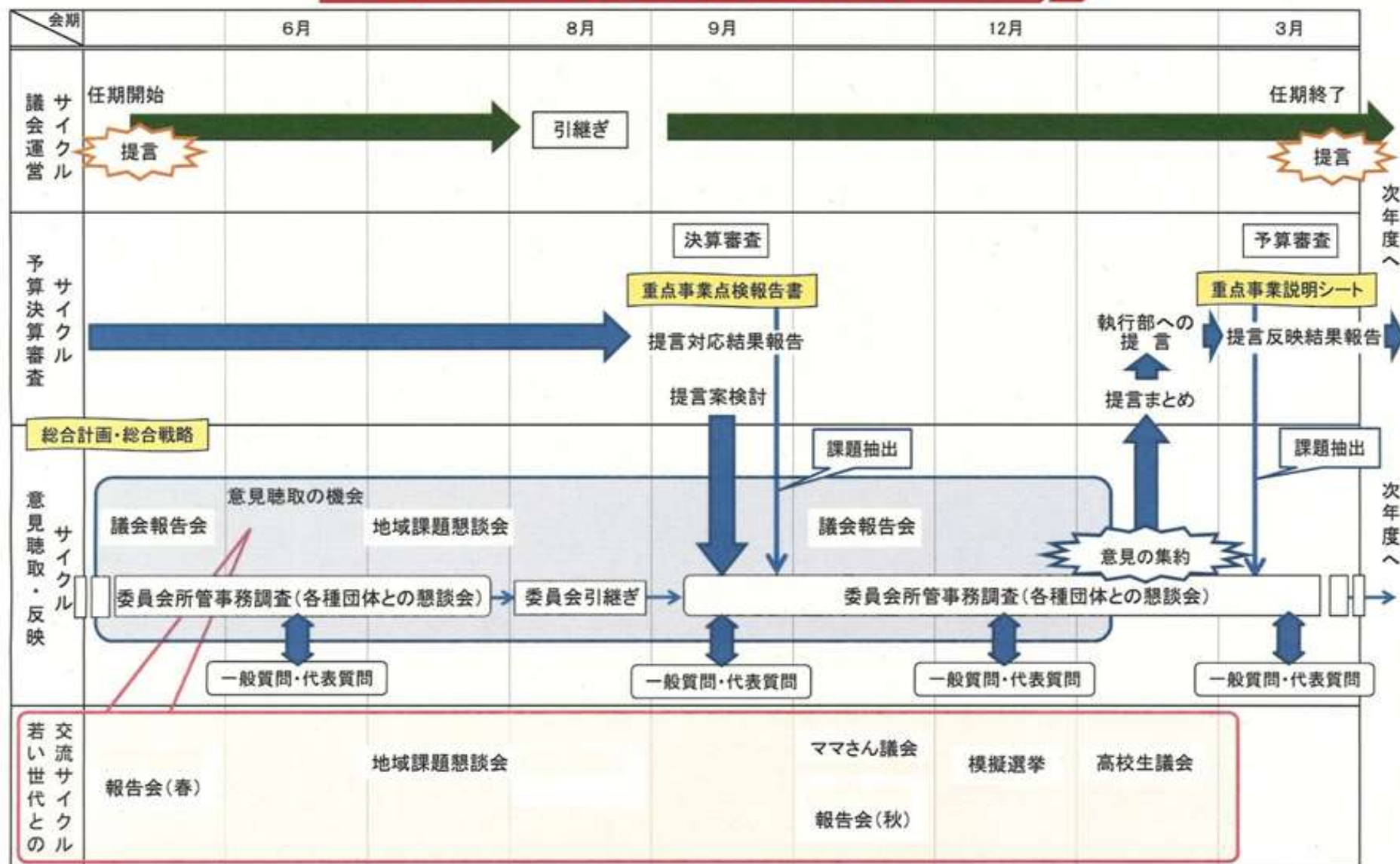
議員定数・報酬について

※上記以外に地域の議長会主催の研修会には議員派遣を行い、全議員が参加。

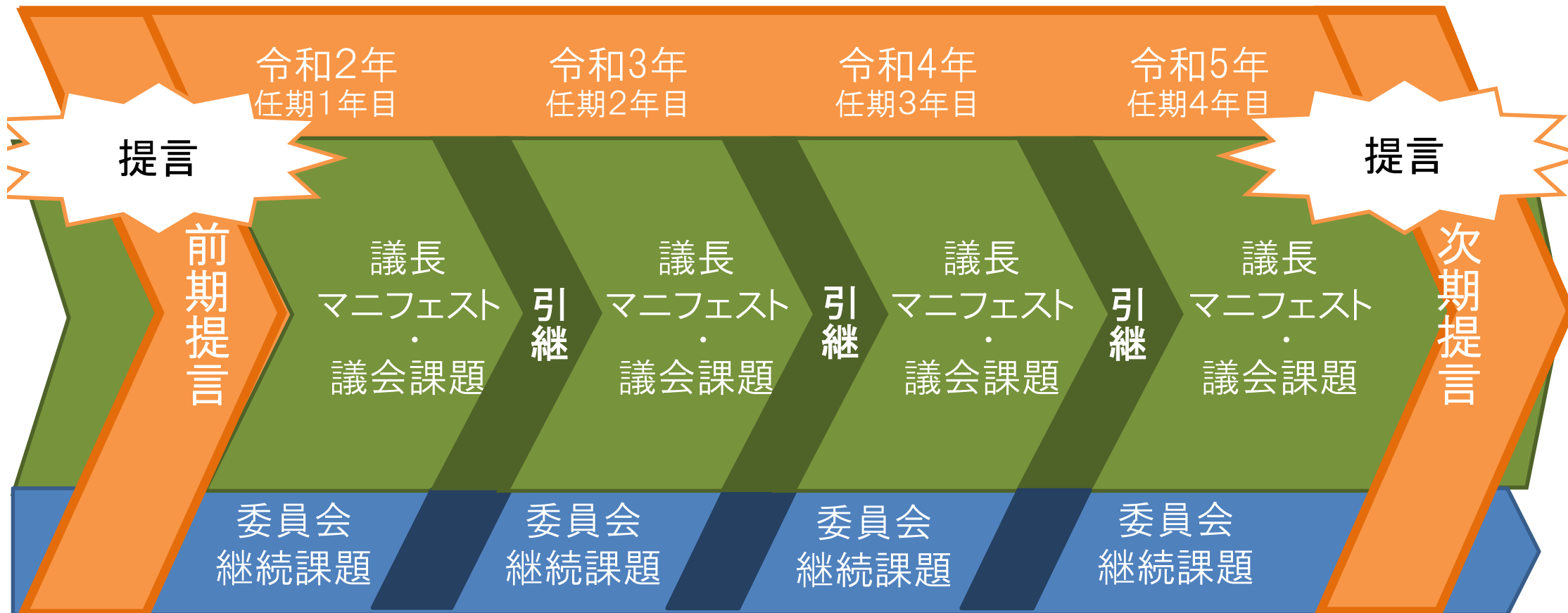
市民福祉向上のための 4つの議会サイクル

可児市議会 4つのサイクルアニュアルプラン

ー民意を反映する政策タイムラインー



議会運営サイクル



H27改選時の引き継ぎ事項

議長職における引き継ぎ事項について

1. 議会のICT化を推進し、議会活動に対する住民理解の促進と住民意見を反映させる仕組みの構築を図ること
2. 議会BCPの策定（業務継続計画）について検討をすること
3. 正副議長所信表明演説会を公開すること
4. 議会基本条例に則り議会改革を進め、その進行管理を十分に行うこと
5. 議会が合議体としての特性を活かし、積極的に政策形成を行う仕組みを整備すること

平成27年 6月19日

可児市議会議長 川上 文浩

議長引き継ぎ事項（R2.6）

1. 新型コロナウイルス感染予防時における議会運営の円滑な実施を図ること
また、各事業の実施方法についても再検討を行い実施すること
2. オンラインによる議会の様々な会議の実施に向けた調査研究を行うこと
3. 広報広聴協議会の組織の充実と円滑な活動ができるよう検証すること
4. 地方議員選挙におけるビラの公費負担の実施を市長に要請したので、今後の条例改正の動向を注視すること
5. 議会事業の評価の確立に向け調査、研究を行うこと
6. 議会活動に関する市民アンケート調査を実施すること
7. 議会BCPに則った議会防災訓練の充実を図ること

各常任委員会においても引継事項をとりまとめ、政策的課題について継続して所管事務調査が行われるようにしている。

正副議長立候補制度

▼立候補手続き

- ・ 所定用紙にて議会運営委員会へ届出 ※正副議長への重複立候補はしない

▼立候補者演説会

- ・ 8月臨時会で**立候補者による所信表明演説**を実施
- ・ 立候補演説10分以内、質疑1人5分以内で実施
- ・ ケーブルテレビにて**公開**

引き継ぎ事項に対して
どうしていくのか

▼投票行為

- ・ 単記無記名による投票行為
- ・ 原則として立候補者氏名を記入（法的には候補者以外の氏名を記入しても有効）



立候補者の演説



投票の様子

実践事例 1

議長職における引き継ぎ事項 からの実施事例

～議会BCPの策定とBCPに基づいた
議会防災訓練について～

議長職における引継ぎ事項

平成27年

2.議会BCPの策定について検討すること

議会BCP(案)を作成

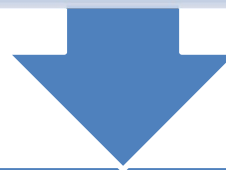


議長職における引継ぎ事項

平成28年

2.議会BCPの策定をすること

議会BCP策定PTにより策定



議長職における引継ぎ事項

平成29年

5.BCPに基づく実践訓練を行うこと

議会BCPに基づいた
議会防災訓練を実施



議運(災害時)



各地での防災訓練の様子②



各地での防災訓練の様子①



各地での防災訓練の様子③

・議員は災害時には災害情報を携帯・タブレット端末などを活用し、災害現場の写真などを議会事務局に報告します。
(写真は訓練なので、各地の防災訓練の様子を報告)

令和2年 議会BCPの改定

6月初旬 新型コロナウイルス感染症の拡大を受け議長からBCPの見直し提案
→プロジェクトチームによる改定作業(3回の会議)

7月末 議会BCP改定

＜主な変更内容＞

- ・感染症のまん延を災害の1つに定義付け
- ・感染症等編の追加(対策事例、対応フローの追加等)
- ・災害時対策会議の招集条件等の変更



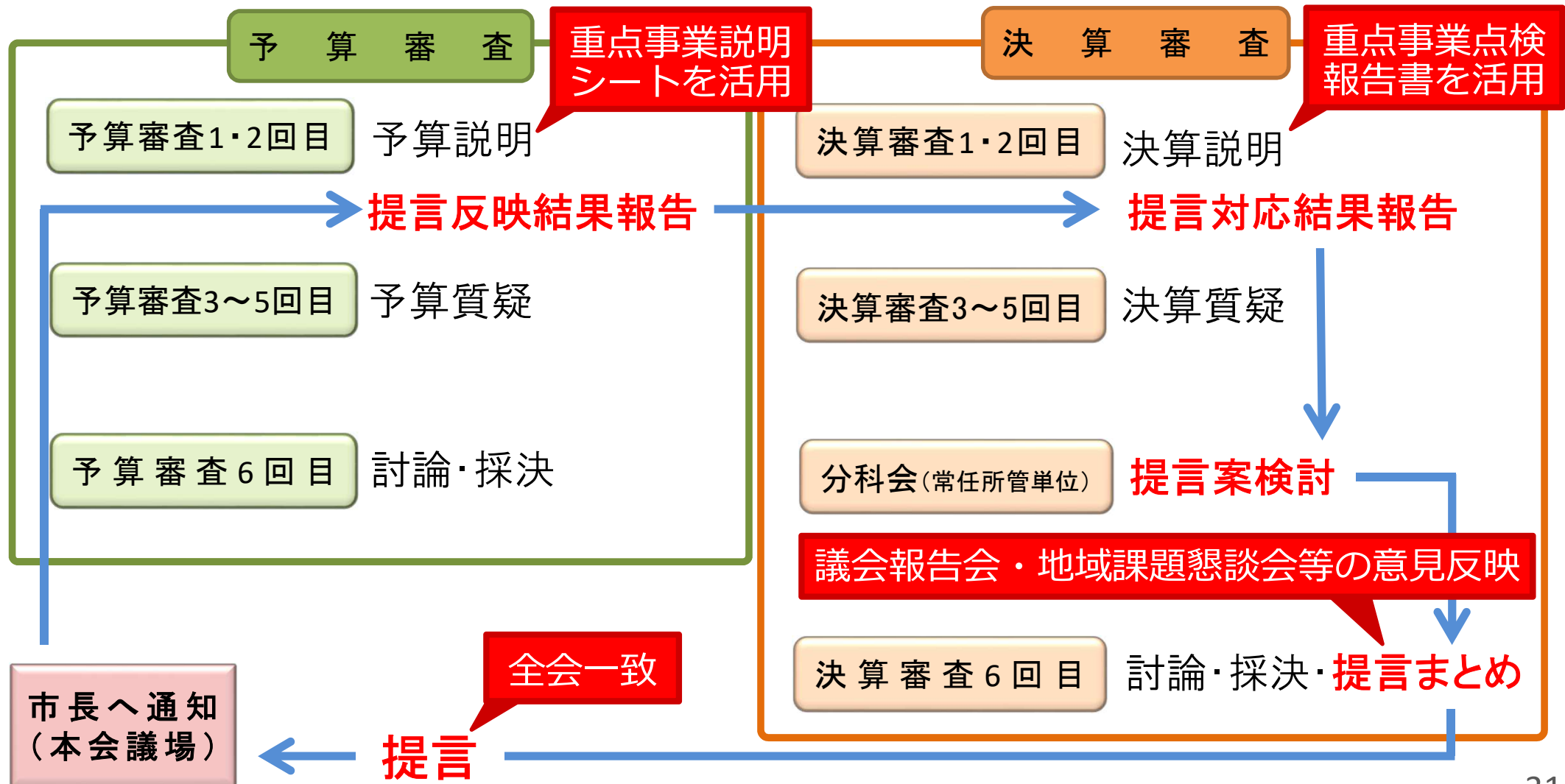
プロジェクトチーム(PT)による会議



PTと山梨学院大学江藤教授、大津市
議会清水局長等との意見交換会

予算決算審査サイクル

予算決算委員会：議員20人で構成(議長・監査委員を除く)



重点事業説明シートの活用

重点事業説明シート

重点方針	高齢者の安気づくり																
総合計画	1	-	2	-	1	総合戦略	4	-	(2)	-	①	所属	福祉	部	高齢福祉	課	
事業名	包括的支援事業・任意事業費											予算額		124,388 千円			
												会計	介護保険	款	3	項	2
事業期間	継続		平成 年度 ~ 平成 年度														
4年後に実現したい姿	住み慣れた生活の場において、必要な医療や介護が受けられ安心して生活できる地域包括ケアシステムが構築されている。																
実施内容	【包括的支援事業】 地域包括支援センターを運営し、高齢者にかかる総合相談、権利擁護業務、包括的継続的ケアマネジメントを行う。																
	【地域包括ケアシステム推進事業】 地域における生活支援サービス体制が整うよう支援する。また、在宅医療と在宅介護の連携を確保し、地域、医療、介護の三者が連携しあいながら、支援を必要とする高齢者を見守る地域づくりを支援する。 ・各地域包括支援センターに、認知症地域支援推進員を配置し、認知症カフェなど地域での認知症の方への支援体制を構築する。 ・地域ケア会議を開催し、高齢者の住み慣れた住まいでの生活を支援するとともに、地域の課題を把握する。																
	【任意事業】 適正な介護給付を図るとともに、高齢者及び介護を要する人に対して必要なサービスを提供する。 ・認知症サポーターの養成を行い、地域での認知症の方の見守りを強化する。																
	＜平成29年度新規取り組み＞ ・地域包括支援センターの効果的効率的な地域支援のために、担当地域の変更を行い、帷子地区を担当するセンターを増設する。 ・各地域に第2層協議体及び生活支援コーディネーターの設置に向けて、情報発信・気運作りを実施する。 ・認知症初期集中支援チームを配置し、認知症への早期診断、早期対応の支援体制を構築する。																
説明資料（写真・地図等）																	
指標						達成状況	H27	H28	H29	H30	H31	H32					
認知症サポーター登録件数						目標値	-	4,500人	6,500人	7,000人	7,500人	8,000人					
						結果	3,843人										
参考指標	地域包括支援センターの相談件数						3,384件										
財源内訳	年度		27年度決算				28年度予算				29年度予算						
	事業費		92,426				117,269				124,388						
	国庫支出金		36,596				45,694				48,511						
	県支出金		18,298				22,846				24,255						
	地方債		0				0				0						
	その他		37,532				48,729				51,622						
	一般財源		0				0				0						

重点事業説明シート

重点方針	地域・経済の元気づくり、まちの安全づくり													
総合計画	3	-	2	-	6	総合戦略	-	-	所属	建設	部	都市整備	課	
事業名	可児駅東土地区画整理事業(可児駅東土地区画整理事業特別会計)								予算額		20,000			千円
									会計	駅東区画整理	款	1	項	1
事業期間	終期あり	平成 11 年度 ～ 平成 32 年度												
4年後に実現したい姿	駅前広場(東側)を整備して交通結節点としての機能強化を図り、来訪者を迎え入れる可児市の「玄関口」を整備し、可児駅東土地区画整理事業を完了する。													
実施内容	駅前広場(東側)の整備に支障となるJR東海の鉄道施設(信号ケーブル)の移設や既存樹木の伐採を行い、駅前拠点施設に隣接した4号緑地の整備を行う。													
	＜平成29年度新規取り組み＞													
説明資料(写真・地図等)														
指標						達成状況	H27	H28	H29	H30	H31	H32		
交通利便性・安全性に満足している人の割合						目標値	28.6%(H25)	-	-	45.4%(H30)	-	-		
						結果	-	-	-	-	-			
事業進捗率:累計事業費/総事業費						目標値	94.6%	94.9%	95.1%	99.2%	99.8%	100.0%		
						結果	94.6%							
参考指標														
年度	総事業費(見込)	～27年度決算	28年度予算	29年度予算	30年度(見込み)	31年度(見込み)	32年度(見込み)							
事業費	8,941,035	8,454,315	27,700	20,000	367,160	50,160	21,700							
財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0	0	0							
	県支出金	0	0	0	0	0	0							
	地方債	0	0	0	0	0	0							
	その他	0	0	0	0	0	0							
	一般財源	8,941,035	8,454,315	27,700	20,000	367,160	50,160	21,700						
事業内容		委託費 工事費 用地・補償費 負担金	委託費 工事費	委託費 工事費 補償費 負担金(移設)	委託費 工事費 補償費 負担金	委託費	委託費							

重点事業点検報告書

(決算時)

重点方針	高齢者の安気づくり	所属	福祉部	高齢福祉課			
総合計画	1 - 2 - 1	総合戦略	4 - (2) - ①	②			
事業名	包括的支援事業・任意事業費 【介護保険特別会計(保険事業勘定)】	決算額	132,220,859 円				
対象年度に目指す事業の成果	住み慣れた場において、必要な医療や介護が受けられ安心して生活できる地域包括ケアシステムの構築を進めず。	款項目	保3	2	1	決算実績報告書	123
実施結果	○包括的支援事業 ・地域包括支援センターの受持ち地域を見直し、南部、西部地域包括支援センターを、南部、鞍子、土田地域包括支援センターとし、美山地区を可児市地域包括支援センターから北部地域包括支援センターの受け持ちとしました。これにより、6つの地域包括支援センターで、高齢者にかかる総合相談、権利擁護業務、包括的継続的ケアマネジメントを行いました。(運営委託料: 70,067,276円) 組合相談実績: 4,895件、高齢者虐待: 5件、包括的継続的ケアマネジメント相談: 669件、権利擁護相談: 11件、介護支援専門員研修: 3回 ○地域包括ケアシステム推進事業 ・市全域に支え合い活動を進めるため、第1期協議体「あんしんづくりサポート委員会」を10回開催しました。また、委員会の円滑実施のためのプロジェクトチームを12回実施しました。支え合い活動推進目的に、市民向けフォーラムを実施しました。 ・在宅医療・介護連携推進プロジェクトチームを構成し、研修会と交流会を行い、顔の見える関係づくりを行いました。また、多職種間の情報連携を円滑に行うための共有シートを作成し、H30年4月より運用を開始しました。 ・地域における生活支援の体制づくりのため、地域福祉懇話会(地域ケア推進会議)を全14地域で実施しました。 ・地域包括ケアシステム若葉台モデル地区において、地域ケア会議を4回、勉強会を3回実施し、地域と介護関係者との意見交換・情報共有の場としました。 ・認知症の方への支援として、地域包括支援センターに認知症地域支援推進員を配置し、認知症カフェ(9会場)、もの忘れ語りごと相談(97回)を開催、認知症ガイドブック、可児市オレンジプランを作成しました。 ・認知症初期集中支援チームを設置し、認知症の早期診断・早期対応の支援を行いました。 ・地域ケア個別会議を9回(17事例)、介護予防マネジメント支援会議を5回(18事例)を実施し、高齢者の住み慣れた住まいでの生活の支援とともに、地域の課題の共有を図りました。 ○任意事業 ・介護用品購入助成事業 給付額: 27,738,155円(H28年度: 23,115,401円) おむつ: 836件(H28年度: 707件)、防水シート: 349件(H28年度: 287件)、おまき: 307件(H28年度: 230件)、肌着: 317件(H28年度: 254件) ・安否確認・配食サービス事業 月平均利用者数: 165件(H28年度: 164件)、年間延利用人数: 54,065食(H28年度: 44,395食) ・認知症サポーター養成講座を32回開催し、2,008人のサポーターを養成しました。						
	○包括的支援事業 ・鞍子、土田地域包括支援センターを配置し、高齢者人口に応じた職員配置を行いました。 ○地域包括ケアシステム推進事業 ・在宅医療・介護連携のプロジェクトチーム会議を立上げ、専門職同士の顔の見える関係づくりを行いました。 ・市内14地区で、地域福祉懇話会を開催しました。 ○任意事業 ・介護用品購入助成事業について、制度の持続性を高めるための検討を行いました。改正には至っていないため今後も継続して検討を行います。						
指標名	対象年度の目標値に達する達成状況	27年度 目標値	28年度 目標値	29年度 目標値	30年度 目標値	31年度 目標値	32年度 目標値
指標①	認知症サポーター登録件数	A	結果	結果	結果	結果	結果
		3,500人	4,500人	6,500人	7,400人	8,200人	9,000人
		3,843人	5,137人	7,145人			
指標②							
指標③							
指標④							
指標⑤							
指標⑥							
指標⑦							
指標⑧							
指標⑨							
指標⑩							
指標⑪							
指標⑫							
指標⑬							
指標⑭							
指標⑮							
指標⑯							
指標⑰							
指標⑱							
指標⑲							
指標⑳							
指標㉑							
指標㉒							
指標㉓							
指標㉔							
指標㉕							
指標㉖							
指標㉗							
指標㉘							
指標㉙							
指標㉚							
指標㉛							
指標㉜							
指標㉝							
指標㉞							
指標㉟							
指標㊱							
指標㊲							
指標㊳							
指標㊴							
指標㊵							
指標㊶							
指標㊷							
指標㊸							
指標㊹							
指標㊺							
指標㊻							
指標㊼							
指標㊽							
指標㊾							
指標㊿							
指標1							
指標2							
指標3							
指標4							
指標5							
指標6							
指標7							
指標8							
指標9							
指標10							
指標11							
指標12							
指標13							
指標14							
指標15							
指標16							
指標17							
指標18							
指標19							
指標20							
指標21							
指標22							
指標23							
指標24							
指標25							
指標26							
指標27							
指標28							
指標29							
指標30							
指標31							
指標32							
指標33							
指標34							
指標35							
指標36							
指標37							
指標38							
指標39							
指標40							
指標41							
指標42							
指標43							
指標44							
指標45							
指標46							
指標47							
指標48							
指標49							
指標50							
指標51							
指標52							
指標53							
指標54							
指標55							
指標56							
指標57							
指標58							
指標59							
指標60							
指標61							
指標62							
指標63							
指標64							
指標65							
指標66							
指標67							
指標68							
指標69							
指標70							
指標71							
指標72							
指標73							
指標74							
指標75							
指標76							
指標77							
指標78							
指標79							
指標80							
指標81							
指標82							
指標83							

実践事例 2

予算決算委員会からの 当初予算に対する附帯決議 からの対応事例

～いじめ防止関連当初予算審議において、
施策の推進体制や権限等を根拠づける条例
の整備を求める～

政策提言・提案の取り組み

▼決算審査による予算編成への提言

決算審査において予算決算委員会で所管ごとに分科会を開催し、自由討議の上、全会一致で提言内容を決定。次年度予算編成にどう反映されたのか報告を受ける。

▼委員会からの附帯決議および提言
委員会において自由討議を実施し、附帯決議や提言内容を決定。本会議にて採決する。

・子どものいじめ防止に関する条例

▼空き家等の適正管理に関する条例

(案) の提案

市民からの要望に基づき所管委員会が調査研究を行い提案したもの
→平成26年第4回臨時会にて制定

予算決算委員会審査結果報告に対する対応（平成 27 年度当初予算）

1. 職員の確保および育成について

職員数については、可児市定員管理計画に定める 523 人を確保するよう努めること。また、重要施策推進のための職員配置や専門性を高める人材育成に取り組むこと。

平成 27 年度の対応

事務職、土木技術職などの一般職、保健師などの医療職、保育士などの福祉職の採用について、可児市に適した人材を見極め、定員管理計画に沿った職員数を確保するよう努めます。

また、高齢者の安気づくりや子育て世代の安心づくりなど 4 つの重点方針を具現化するため臨床心理士、精神保健福祉士などの専門職を募集するとともに、専門研修への派遣及び実施により、人材育成に取り組みます。

2. 臨時財政対策債のあり方について

市債は将来世代への負担となるものである。財政調整基金や公共施設整備基金などの積み立て残高を考慮しながら、臨時財政対策債の借入額を適正に決定すること。

平成 27 年度の対応

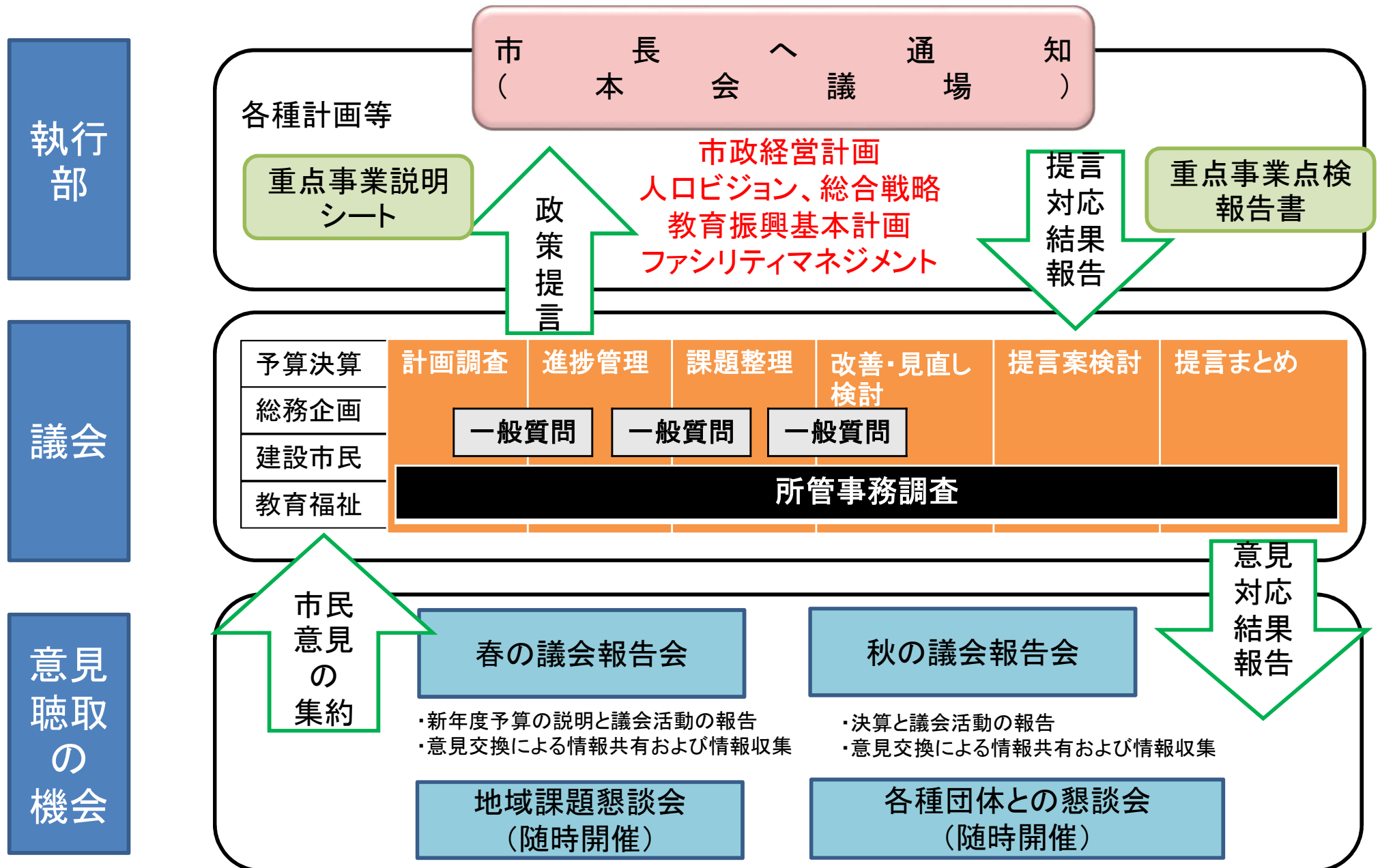
臨時財政対策債は、地方の一般財源の不足に対処するため、投資的経費以外の経費にも充てられる地方財政法第 5 条の特例として発行される地方債です。地方交付税として算定されるべき額の一部が、代替財源としての臨時財政対策債の発行に振り替えられるという形であり、発行可能額の元利償還金相当額全額が後年度、地方交付税の基準財政需要額に理論的に算入されることとなっているものですが、当市では、以前より発行可能額の一定割合に抑制して借り入れしてきました。平成 27 年度予算においては、基金の状況を勘案し、更なる抑制を行っています。

平成 27 年度予算措置

(単位：千円)

項 目	予 算 額		
	平成 27 年度	平成 28 年度	前年度対比
臨時財政対策債	694,800	1,100,000	△405,700
財政調整基金繰入金	942,000	312,000	630,000
公共施設整備基金繰入金	0	200,000	△200,000
合 計	1,636,800	1,612,000	24,800

意見聴取・反映サイクル



議会報告会の実施

基本条例で毎年開催すると規定している。

開催当時（平成24年2月～）

開催時期：春（5月頃）と秋（11月頃）

開催場所：各地区センター(連絡所)単位

運営方法：副議長、常任委員会、議会運営委員会の委員長及び議会広報

特別委員会正副委員長をメンバーとした議会報告会実施会議

において運営 ※R1.8月からは広聴部会を中心に運営

広報手段：議会広報紙、議会ホームページ、ケーブルテレビ、FM放送、フェイスブック、地域回覧版、チラシ配布 等

その他：後日説明の資料と動画を配信

開催状況

第14回（令和元年5月・4会場・75名）

▶ 平成31年度予算審査の報告

▶ 意見交換 テーマ「災害への備え」

→報告には**議会だより**を活用

→報告および意見交換共に**グループ形式**

→最後に会場全体で**意見交換結果を共有**



第11回（平成29年5月・4会場・64名）

- ▶ 平成29年度予算審査報告
- ▶ 意見交換

テーマ「公民館のコミュニティセンター化に向けて」

第11回可児市議会報告会

議員と語ろう

議会活動を知っていただき、意見交換を行うため、議会報告会を開催します。グループ形式で平成29年度予算審査報告と意見交換を行います。どなたでも参加いただけますので、ご参加ください。

意見交換テーマ

公民館のコミュニティセンター化に向けて

5/19 19:00-20:30 金曜日

会場: 兼山公民館










5/20 10:00-11:30 土曜日

会場: 桜ヶ丘公民館












正副議長は全会場に出席します

5/21 10:00-11:30 日曜日

会場: 下恵土公民館










5/21 14:00-15:30 日曜日

会場: 土田公民館










問合せ先: 可児市議会事務局
Tel 62-1111 (代表)
Fax 63-3972

- ・ 議員全員が参加（議長、副議長は全会場出席）
- ・ 市民参加者4～6名と議員2名でグループを構成（1会場4グループ）
- ・ 意見交換が活発に行われるようテーマを設定
- ・ 事前に議員がチラシを持って自治連合会に趣旨説明し参加者を募る

with コロナ時代における 議会報告会 のあり方

かつての議会報告会



見直し

第16回（令和2年11月）

- ▶ 報告「令和2年度定例会における令和元年度決算認定」
「新型コロナウイルス感染症に対する市の施策及び議会の対応」
- ▶ 意見交換 テーマ「コロナ禍における地域活動について」



- ・ 出席者は市自治連絡協議会14名に限定
- ・ 議場において、**十分な座席間隔を確保**
- ・ 一部議員は**オンライン会議室システムを活用**して参加
- ・ 報告会の様子をケーブルテレビで番組作成し放送（YOUTUBEでも配信）

第18回（令和3年10月）建設市民委員会 ・ 建設業連合会



コロナ禍により、自由参加の市民とグループ討議することができない状況。

議会全体の報告会ではなく、各委員会で関係団体との懇談会・意見交換会など、密集にならず参加者が後からでも特定できる方式を選択した。

第20回（令和4年1月） 教育福祉委員会 ・ 可児市民生児童委員連絡協議会



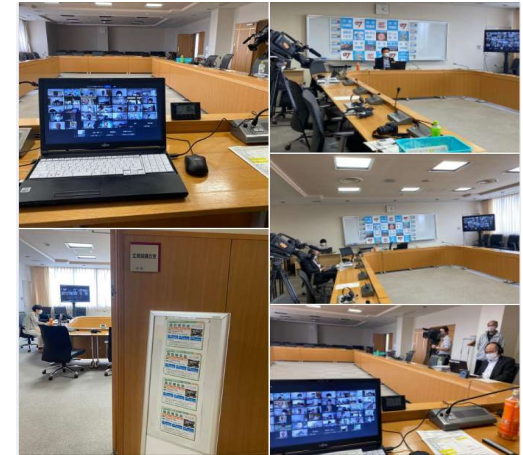
～完全オンラインの議会報告会～

第22回 議会報告会（令和4年5月）

◆ ズームのブレイクアウトルーム機能を使い、興味のあるテーマ市民の方が選んで参加するかたちで開催。一部の議員も自宅からオンライン参加。

【第1部】 全体「どう使われる？可児市の予算」 （予算決算委員会）

【第2部】 意見交換会（ブレイクアウトルーム）
「今こそ考えよう消防団活動」 （総務企画委員会）
「外国籍の人も住みやすい街って？」 （建設市民委員会）
「活用されているの？学校のタブレット」 （教育福祉委員会）



- ズームは参加しやすかった。若い人も気軽に参加し、意見を出してもらえるようになるといい。
- 資料を目の前で確認でき、文字も大きくできるので見やすい。音声も聞き取りやすかった。



～ハイブリッドの議会報告会～

第23回 議会報告会（令和4年11月）

◆ 参加者の希望に応じて対面とオンライン参加を併用し開催

【第1部】全体「令和3年度の決算は？」（予算決算委員会）

【第2部】意見交換会

「可児市の魅力発信について」

（総務企画委員会）

「外国籍の人の“まなぶ・はたらく”を考えよう」

（建設市民委員会）

「保護者から見た学校・教育の課題」

（教育福祉委員会）



- 対面とオンラインの併用は、参加機会が広がるメリットがある一方で、オンライン参加者からも「完全オンラインでなく、対面も可ならば、やはり直接話をするほうが良い」との声もあり、併用はオンライン参加者の人数などの状況も考慮し、行う必要がある。

各種団体との懇談会

- 目的： 市民参加の推進と情報公開のため
- 根拠： 可児市議会基本条例第6条第1項（市民参加及び市民との連携）
可児市議会基本条例第11条第2項（常任委員会の活動）
- 懇談団体： 総務企画委員会 地域活動団体（3団体）
教育福祉委員会 教育委員



視察報告会の実施

2 会派が熊本被災地を視察。
合同で視察内容を報告。

開催時期：平成28年12月2日

開催場所：**本会議場**

参加者：自治会関係者、防災の会、
建設業関係者、職員等



現地の様子を**大型スクリーン**を使って報告

可児市議会熊本被災地視察報告会



開催日時 12月2日(金) 午前10時～
会場 可児市役所5階 議場

参加
無料

主催 可児市議会

可児市議会議員による熊本地震被災地の視察報告会です。
地震への備えや災害への対応等、市民の皆様のご参考になれば幸いに存じます。
ぜひご参加いただきますようご案内いたします。



問合せ 可児市議会事務局 TEL 0574-62-1111 (内線3501) FAX 0574-63-3972

実践事例 3

一般質問からの委員会 所管事務調査への追加

～可児市内への汚染土壌処理施設の建設計画～

土壌処理施設着工計画に関する一般質問

平成28年12月定例会

生活環境・交通安全の問題

平成28年12月16日
委員会における参考人招致

類似施設である名古屋リサイクルセンターへ行政視察
※地元役員も同行

所管事務調査：建設市民委員会行政視察

平成29年2月13日

名古屋リサイクルセンター

建設市民委員会引き継ぎ事項

建設予定施設と
ほぼ同等の施設へ行政視察

所管事務調査：建設市民委員会行政視察

平成29年10月31日、11月1日

秋田県大館市(DOWAエコS)



実践事例 4

委員会代表質問

～委員会全会一致の質問で
執行部に問う～

地方自治法第109条(委員会の権限)

第百九条 普通地方公共団体の議会は、条例で、常任委員会、議会運営委員会及び特別委員会を置くことができる。

- ② 常任委員会は、その部門に属する当該普通地方公共団体の事務に関する調査を行い、議案、請願等を審査する。
- ③ 議会運営委員会は、次に掲げる事項に関する調査を行い、議案、請願等を審査する。
 - 一 議会の運営に関する事項
 - 二 議会の会議規則、委員会に関する条例等に関する事項
 - 三 議長の諮問に関する事項
- ④ 特別委員会は、議会の議決により付議された事件を審査する。
- ⑤ 第百十五条の二の規定は、委員会について準用する。
- ⑥ 委員会は、議会の議決すべき事件のうちその部門に属する当該普通地方公共団体の事務に関するものにつき、議会に議案を提出することができる。ただし、予算については、この限りでない。
- ⑦ 前項の規定による議案の提出は、文書をもつてしなければならない。
- ⑧ 委員会は、議会の議決により付議された特定の事件については、閉会中も、なお、これを審査することができる。
- ⑨ 前各項に定めるもののほか、委員の選任その他委員会に関し必要な事項は、条例で定める。

委員会代表質問を行うようになった経緯

◆委員会機能のさらなる充実のために実施

1. 当初から議会報告会の意見は常任委員会別で整理し議会HPで公開していた（地区センター単位での開催）。可児市議会にも会派はあるが市民の課題は常任委員会の方が受け止めやすく、取り組みやすい実情があった（現在の議会報告会はコロナ禍の影響もあり、各常任委員会ごとで開催）。
2. 執行部からの報告も会期前委員会にて常任委員会で行われている。

委員会全員の一致で行う執行部への問いかけの影響力は大きく、より今後の提案につながられるのではないか

可児市議会基本条例運用基準(抜粋)

可児市議会基本条例【H25.4.1施行】

(常任委員会の活動)

第11条 常任委員会は、所管事務調査及び政策提案を積極的に実施し、その機能を十分発揮しなければならない。

2 常任委員会を代表する議員は、本会議において議長の許可を得て所管事務に関する質問をすることができる。

【H29.4.1施行】

3 常任委員会は、その審査過程を市民との懇談会等で説明するよう努めなければならない。

4 常任委員会の改選が行われるときは、所管事務調査及び政策提案の内容を取りまとめ、次の常任委員会へ引き継がなければならない。

13 委員会(代表質問)

条例第11条第2項に規定する常任委員会を代表する議員の質問(以下「代表質問」という。)については、次のとおりとする。

(1) 代表質問は、委員会の所管事務について議長の許可を得て質問することができる。

(2) 代表質問は、**委員会の全会一致**により行うことができる。

(3) 代表質問を行う場合は、次のことに留意すること。

① 委員会の調査研究を充分に行なうこと。

② **市長等への提案事項、重大な事案・事件の発生事項、または、過去の一般質問において、明確な答弁(検討事項を含む)が得られなかった事項で今後の提案につなげることができるものとする。**

③ 常任委員会の代表は、委員会の委員の中から一人を決定すること。

④ **質問内容は、委員会の承認を得ること。**

⑤ 委員会の承認を得た内容は、箇条書きにして文書で通告書と一緒に議長に提出しなければならない。

⑥ 通告書は、要旨(100文字)及び詳細を明記しなければならない。

(4) 通告書は、議員に配布する。

(5) 代表質問は、一般質問の前に行う。

(6) 代表質問した者は、一般質問をすることができる。ただし、同じ内容で行うことはできない。

委員会代表質問

- 代表質問の実施まで

各議員の一般質問

委員会の所管事務事項 等から

代表質問するかどうか??

- ・緊急性
- ・必要性 等を勘案

する場合の質問者、論点、想定問答等の検討

災害情報の発信の問題

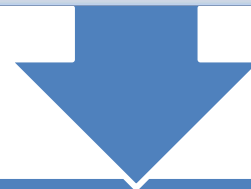
避難勧告発令が市HPでの広報遅延

災害対策本部の体制の問題



平成29年9月定例会

委員会代表質問（総務企画委員会）



執行部の対応

メール配信サービスのHPでの確認が可能に

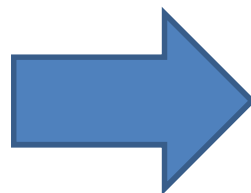
「FMらら」の割込放送の検討及びエリアメールの開始へ

委員会代表質問



～議会報告会から委員会代表質問へ～

- ◆ コロナ禍により、市民対象の議会報告会・意見交換会ができない状況。
- ◆ 議会全体の報告会ではなく、各委員会で関係団体との懇談会という形で開催することに決定。



建設市民委員会では、外国籍市民に関わる方との議会報告会（意見交換会）を開催することにした。



可児市の多文化共生の状況や、ブラジル・フィリピンの方の国民性について、事前に勉強会をしました。

開催日：令和3年11月11日
 開催場所：多文化共生センター・フレビア
 参加者：外国籍市民代表、国際交流協会職員、
 人材派遣会社、ばら教室KANI教員、
 教育研究所職員、市人づくり課職員（議員含む16人）
 テーマ：「外国籍市民への行政情報の伝達について」
 「外国籍の子どもたちの就学状況について」

議長から議会の現状報告の後、
 テーマ別の2グループに分かれて意見交換。



意見交換の中で出た意見(抜粋)

- 地域の自治会の案内などは外国語版がない。
- インターネットで情報を得ることが多いが、間違った情報も拡散しやすい。
- 困り事や相談内容が多種多様なので相談窓口の充実を。
- 子どもたちのアイデンティティ形成や日本語教育のためには母国語教育が重要。
- 学校や市の窓口において通訳は重要である、人員確保と賃金アップを。
- 行政や国際交流協会だけの対応に限界がある。地域で課題共有を。



1 1月15日建設市民委員会（会期前）

1 2月議会で**代表質問**を
することを決定。

委員会代表質問(12月定例会)



外国籍市民へ対する行政情報の
伝達に有効な手段の検討は。

通訳の増員は。

子ども達の語学習得の課題は。
夜間中学の必要性は。

【執行部の主な答弁】

- ・外国籍キーパーソン会議(仮称)」を新設し、行政情報の有効な伝達について検証していく。
- ・小中学校の通訳増員について予算確保を国や県に働きかける方針である。

これまでの委員会代表質問

総務企画委員会

平成29年第4回定例会

「災害時の情報発信及び災害対策本部の体制について」



- ✓ メール配信サービスのHPでの確認が可能に
- ✓ FMらら(コミュニティFM)の割込放送
- ✓ エリアメールの開始

建設市民委員会

平成29年第4回定例会

「汚染土壌処理施設への対応について」



- ✓ トラックごと放射線量を計測するゲートの設置
- ✓ 従業員のポケット線量計の携帯

教育福祉委員会

平成30年第1回定例会

「小・中学校2学期制への移行について」



4月1日から市内の小・中学校が3学期制→2学期制となる直前に混乱を生じないように警鐘

委員会代表質問

- 建設市民委員会

令和3年第6回定例会

「外国籍市民への行政情報伝達と生活環境について」



- ✓ 「外国籍キーパーソン会議(仮称)」を新設し、行政情報の有効な伝達について検証⇒「**外国籍市民会議**」として、取り巻く状況や様々な意見を外国籍市民から直接聴く場が所管課に設けられた。
- ✓ 小中学校の通訳増員について予算確保を国や県に働きかけていく

- 教育福祉委員会

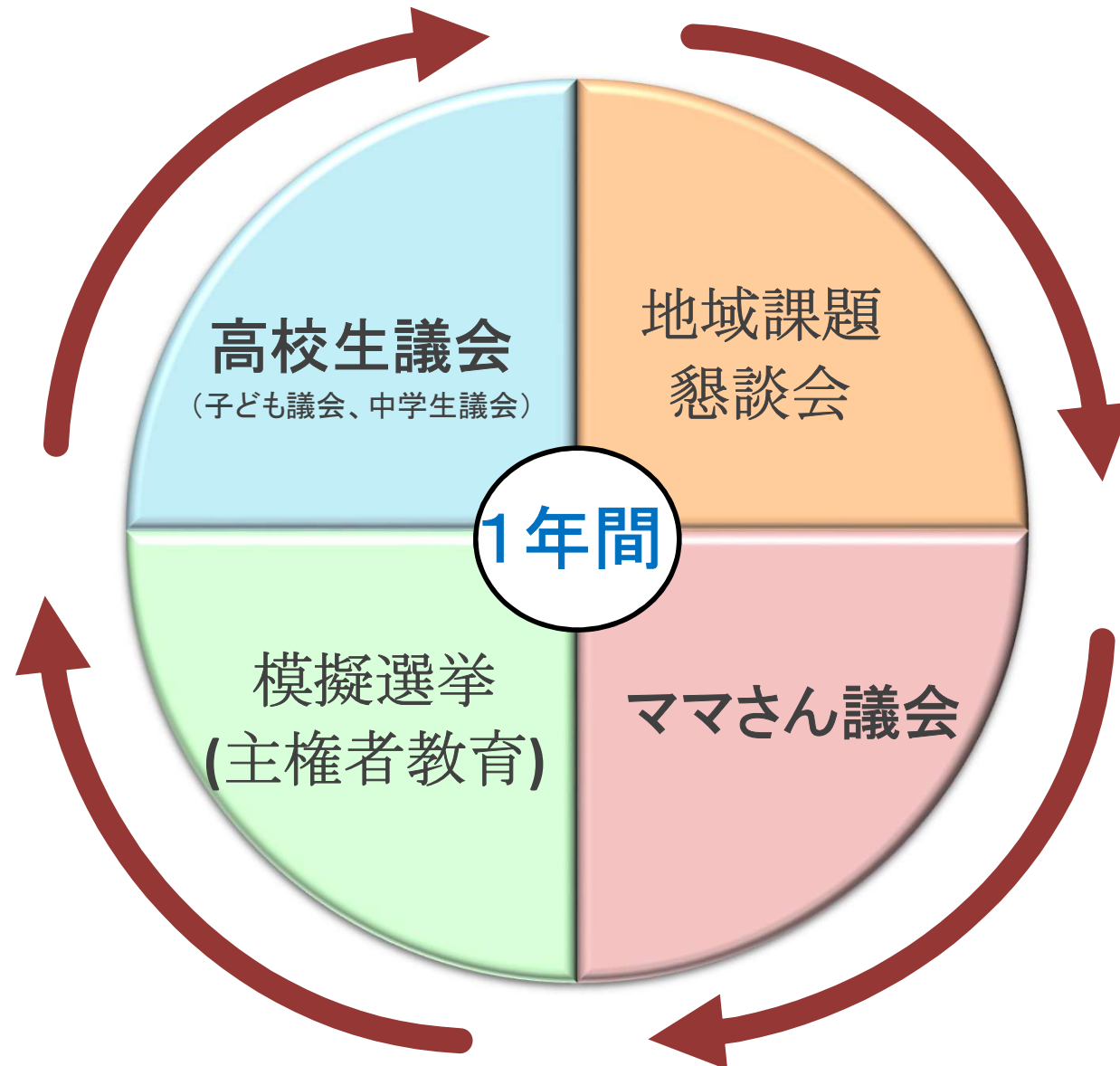
令和4年第7回定例会

「不登校に対する支援の充実を」



不登校の要因が複雑多様化する中で、保護者・関係機関との連携、ワークショップ活動、認知プログラムの運用など各種取り組みのさらなる推進をしていく

若い世代との交流サイクル



議会・学校・行政・地域との協働

若い世代への取り組み

・高校生も**市民の1人**

可児市議会基本条例より

第2条 この条例において、次の各号に掲げる用語の意義は、当該各号に定めるところによる。

(1) 市民 市内に居住し、通勤し、通学する個人又は市内で活動する団体をいう。

・高校生の意見を把握し、**市政に反映！**

第3条の議会活動には、市民の多様な意見を的確に把握し、これを市政に反映させることと明記。

・若い世代の**都市部流出**が地方衰退につながる。

多額のコストをかけて若者を育成しても、都市部へ移住されては地域の担い手は減少してしまう。

・地域の**魅力を知る場**の提供

地域の大人と関わる場所を提供することで、地域への愛着や当事者意識をもってもらい、新しい体験により、広い視野で社会とのつながりを実感してもらう。



ふるさと発展に寄与する人材育成

大人 × 若い世代(高校生)

➡ 可児市の魅力を知る場

- ▶ 地域への愛着や当事者意識の醸成
- ▶ 広い視野や新しい経験の獲得
- ▶ 社会や学問のつながりの実感 など



ふるさと発展に寄与する人材育成



地域課題解決型キャリア教育

キャリア教育支援

可児高等学校が求める大人と関わる機会と議会が求める若い世代の意見を聴取する機会を設ける方向性が合致したこと。

キャリア教育推進のためには、
地域で活動する大人と関わる
機会とその運営者が必要。

高校



基本条例に規定される市民は
有権者だけではない。
20歳未満の若い世代との
関わる場が必要。

議会

「キャリア教育についての研修会」

目的：平成26年2月10日に開催する高校生議会に先立ち、可児高等学校が実施するキャリア教育について、目的や内容などを把握するため。

時期：平成26年1月15日

講師：可児高等学校教諭 浦崎 太郎 氏

対象：可児市議会議員およびH26.2.10
意見交換参加職員（介護専門職）



キャリア教育研修

高校生とのグループワーク

「I P E手法を活用した意見交換」

I P Eとは「多職種間連携教育(Inter Professional Education)」の略称で、複数の領域の専門職者が連携し、お互いから学びあい、お互いのことを学ぶ仕組み。



この考え方を参考に、専門職である主任ケアマネや保健師などの地域課題に取り組む複数の専門家に加えて、議員や高校生などの若い世代が地域の課題を一緒に話し合い、認識を深め合うため、議場での活動報告の後に、介護ケア事例を題材に意見交換を実施した。

この意見交換は、議場で高校生から提案された意見書に基づき、『**大人**』である地域包括支援センターの協力を得て開催することができた。

- ・議会主催のキャリア教育支援の取り組みを高校生議会として実施。（H26.2）
若い世代の意見を聞く機会をどう設けるのか意見交換し、意見書を採択。
（議員16名 大学生2名 高校生24名 職員等15名 が参加）
- ・**子育てに関わる**事業者・団体の協力を得て開催。（H27.2）
『子育て支援』をテーマに意見交換し、意見書を採択。
（市長 議員21名 子育て支援団体10名 高校生24名 職員8名 が参加）
- ・キャリア教育を支援する団体の支援を得て開催。（H28.2）
来年度の**キャリア教育活動計画**について話し合い、意見書を採択。
（市長 議員22名 支援団体13名 高校生29名 職員4名 が参加）
- ・実際起きている問題をより身近に捉え意見交換を実施し発表。（H29.2）
行政実務をクロスロード的な手法により議論し、議場において発表。
（市長 議員 支援団体13名 高校生29名 職員 が参加）



第7回高校生議会(R2.2.5)

今回は2部制で議員との意見交換や報告・質疑応答などが行われました。
市長 議員22名 高校生25名 職員 が参加

【第1部】 R1.10の模擬選挙立候補者の選挙公約だった3つのテーマについて
生徒と議員が意見交換を実施

テーマ①「学習支援（学校以外の学習環境）」

テーマ②「多文化共生」

テーマ③「社会福祉（子育て、高齢者等）」

【第2部】 協議結果の報告と質疑応答



第8回高校生議会(R4.3.25)

コロナ禍のため、従来のような生徒と議員のグループディスカッションという形ではなく、成果発表会という形式（2部制）で活動報告やマニフェスト提案などが行われました。

（市長 議員17名 高校生16名 職員 が参加）

【第1部】可児高等学校のコアメンバーの生徒が調査・研究を進めている3つのプロジェクトについての活動報告

テーマ①「環境」・・・環境課題に向けて

海洋プラスチック問題に着目し、給水スポットを検索できるアプリを普及させ給水スポットを増やすことでペットボトル消費を削減することを提案。

テーマ②「教育・福祉」・・・福祉政策や子どものメンタルヘルス

ボランティアをしながら子育て世代にアンケートをとり今後の活動に活かす予定。
居場所づくりのほか、高校生が勉強を教える寺子屋のようなことができれば・・・

テーマ③「可児市のブランディング戦略」

・・・移住促進に向けて

可児市は「暮らす」という視点で考えるとよい点が多い。
インスタグラムを利用し情報発信するなどして人口減少対策、移住促進に貢献したい。



第8回高校生議会(R4.3.25)

【第2部】模擬選挙のマニフェストから市への提案

R3.11月に校内で実施した 模擬選挙の立候補者の選挙公約をもとに市への提案を行う。

- ・ 模擬投票の総括報告
- ・ 立候補者（3人）からの提案

①教育の経済的支援、外国籍市民への支援

経済的な理由で学ぶ機会が奪われないよう、外国籍の子も含めた多くの地域の子ども達のために支援を。

②平等に医療が受けられ、健康で生活ができる都市

医療機関の充実やボランティア活動の支援が、市の活性化や市民の健康寿命を延ばすことにつながる。

③移住促進政策

人口を増やすには可児市が現在もつ魅力を発信することが大事。

SNSの有効活用や移住者への補助金制度を。



第9回高校生議会(R5.3.24)

◆可児高等学校 探求学習の成果発表

<2年生 コアメンバーによる活動報告>

(A) アーラと協力した児童との交流

(B) Corpbook

(可茂IT塾とコラボした 地元企業紹介ビデオの作成)

<1年生による活動報告>

(C) 里芋を活用した地域振興

(D) 休耕地の有効活用に向けての農業振興アプリの提案



◆探究学習を通じた市への提案

可児高発議第1号「探究活動に対する支援に関する意見書」を全員賛成で採択。

要望事項：可児市役所内に若者の探求活動を支援する部署を設置すること



若い世代への取り組みの成果と課題は

＜実際参加した高校生の感想＞

- 活動する中で苦労はあったが、議員や市長からの意見・質問などから新しい視点に気づくことができ、今後の活動の糧になった。
 - 地域課題の解決のためには市民が賛同できるものである必要があり、しっかり説明して理解してもらう必要があると強く感じた。
 - 「税金を使ってお金を出して支援すればよい」ものではなく、支援後の未来を見据えた持続可能なものである必要があると感じた。
-
- ✓ 議会側：若い世代と交流し意見交換することで、**多様な声を拾い上げ地域課題に対する新たな認識や取り組みへのきっかけ**とすることができる。
 - ✓ 高校生などの若い世代側：様々な大人と接し、**地域課題を自ら考えるきっかけ**となり、高校生議会などを通して今後は地元市民や他学校などと連携して活動してみたいといった声もあり、その場限りのものではなく、**可児市のために何ができるか**をそれぞれが考えていく原動力のひとつとなっているのではないか。

模擬選挙(H28.3.25)

模擬選挙前に、生徒を中心に選管職員、議員を交えて5回の打合せ

- ・ 生徒による争点案の抽出とマニフェスト案の作成。

候補者の演説会、**グループディスカッション**、模擬投票を実施（H28.3）

内容：生徒代表による趣旨説明

候補者3名による立会演説会

生徒1、2年生全員が6人程度グループに分かれマニフェストの検証

本番同様の投票用紙等を使って模擬投票

生徒による開票

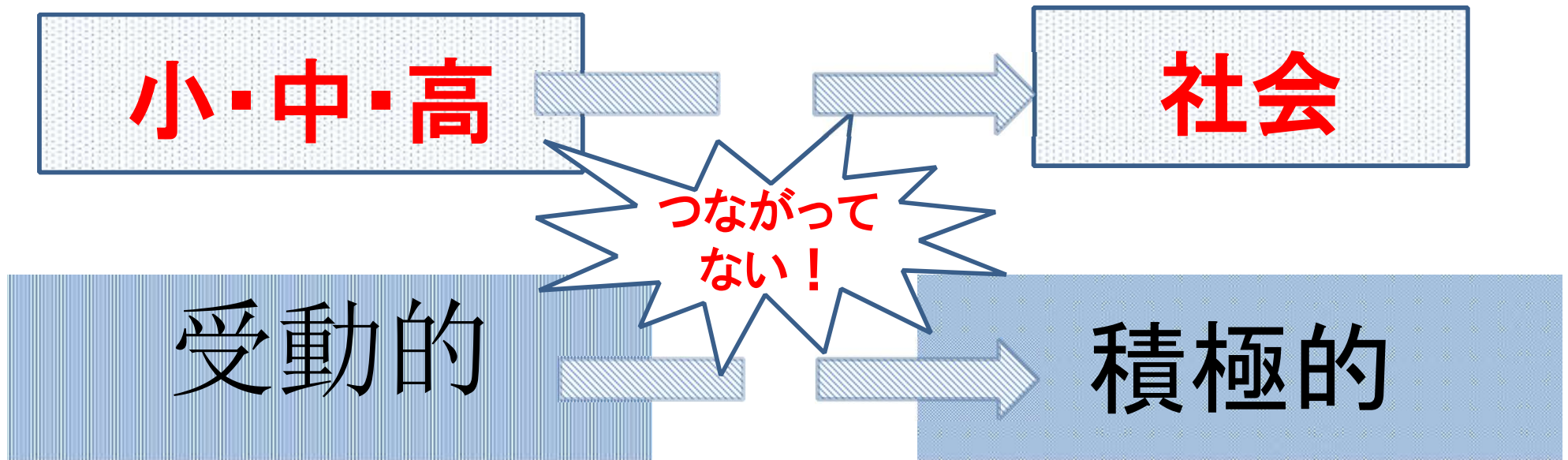


生徒による趣旨説明



グループディスカッション

なぜ若者の投票率が低いのか



EX. 生徒会選挙では、
全員が半ば強引に投票

EX. 自分から投票所に行
って投票

高校生の段階では、受動的にしか選挙に
ついて学んでいない
⇒「人を選ぶ」という経験がない

生徒の疑問1 どうやって投票するの？



本番さながらの選挙

平成28年3月25日執行
可児市長選挙選挙公報
(この選挙公報は、候補者から提出された原稿をそのまま掲載したものです。)

可児高校選挙管理委員会

角野仁美 21歳

『だれもが住みやすい街づくり』
～可児高校生の目線に立つて～

＜教育＞～総合施設を完備した図書館～
1. 学習スペース、カフェスペース、読書機能
を兼ね備えた図書館への建て替え。
2. エンリッチプロジェクトやインターンシップ
の拠点整備と推進。

＜交通安全＞～通学時の安全確保～
1. 歩行者と自転車に安全に利用できる
通学路整備。
2. 学校と駅を結ぶ、バス本数の増加。

＜防災＞～大震災にむけて～
1. 通学路や橋など通学路の補修。
2. 帰宅困難となった場合に備え、学校の
備蓄品強化。
3. 高校生も災害ボランティア活動が
出来る仕組みづくり。

＜観光＞～市内の高校生連携～
1. 高校生主体で、花フェスタ記念公園
の企画運営参加。
2. 可児市観光ルートづくりと、PR。

目指せ！10万人総活躍社会
若者が元気にまちを可児！ 4つの政策課題 誰もが居場所と出番があるまちを可児！

山口海斗 21歳

◆交通安全 通学路の安全を最優先！危険な交差点や狭い道路の改善
可児市版自転車交通小 中 高校生免許制度の創設

◆防災対策 地域防災リーダーの養成 常設型災害ボランティアセンター
を開設し、防災啓発と被災地支援活動を実施

◆教育 優秀な人材の育成 大学主体の学習支援NPO設立
可児駅前子育て支援施設「つむぎ（ら）」の活用

◆観光 SNSを駆使し、非可児のいい可児コンテストの実施
高校生と高校生がタッグを組み、体験型観光プログラムを開発

若者が可児を変える！ @KaigoTogara

選挙公報

可児市長選挙の投票日は平成28年3月25日です！



投票用紙等



選挙ポスター



期日前投票

生徒の疑問2 どうやって選んだらいいの？



グループディスカッション



生徒代表による趣旨説明



投票の指標を議員が説明



グループで選挙公約を検証

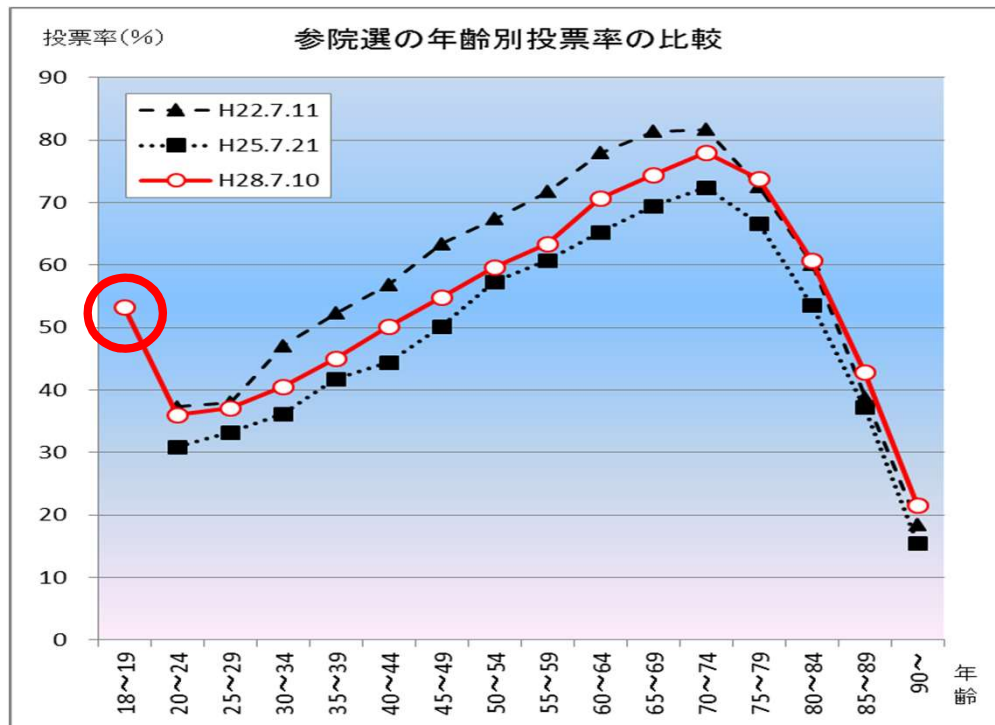


グループで選挙公約を検証

H28参議院議員通常選挙の結果について

【全体投票率】

	全国	岐阜県	可児市
H22.7.11	57.92%	59.75%	61.74%
H25.7.21	52.61%	52.97%	52.38%
H28.7.10	54.70%	57.74%	57.52%
H25→H28の上昇率	2.09	4.77	5.14



年齢 (5歳区分)	前回	順位	今回	順位	前回から の周上率
18~19	—	—	53.30%	9	—
20~24	30.94%	14	36.11%	15	5.17
25~29	33.23%	13	37.08%	14	3.85
30~34	36.25%	12	40.56%	13	4.31
35~39	41.73%	10	45.05%	11	3.32
40~44	44.48%	9	50.24%	10	5.76
45~49	50.23%	8	54.84%	8	4.61
50~54	57.30%	6	59.61%	7	2.31
55~59	60.73%	5	63.39%	5	2.66
60~64	65.26%	4	70.76%	4	5.50
65~69	69.49%	2	74.42%	2	4.93
70~74	72.47%	1	77.93%	1	5.46
75~79	66.65%	3	73.86%	3	7.21
80~84	53.58%	7	60.69%	6	7.11
85~89	37.33%	11	42.81%	12	5.48
90~	15.57%	15	21.54%	16	5.97
計	52.38%		57.52%		5.14

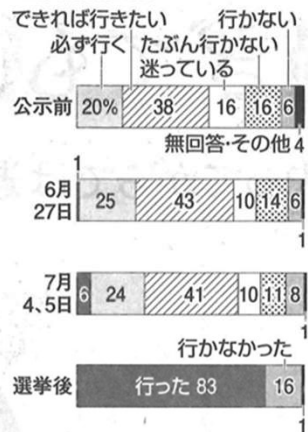
選挙戦進むと投票意欲

投票行く・行きたい58%→行った83%

情報分析力 養成が課題

田中伸・岐阜大学准教授（社会科教育学）の話 投票によって社会を変えたいと考える生徒が増えてきたことを示す調査結果だ。ただ、政治への関心は選挙期間を通して微増にとどまった。関心がある生徒は積極的に候補者の政策を調べて分析する一方、そうではない生徒との二極化が進んでいると考えられる。学校が全ての生徒に情報分析力をどう養わせ、卒業後も政治や社会にどう興味を持たせるかが課題だ。

投票に行きますか、行きましたか
小数点以下を四捨五入したため、合計が100にならない場合がある。「行った」は期日前投票を含む



参院選で新たに有権者となった岐阜県の高3生約180人に、朝日新聞が投票意欲などを連続調査した。7割は「学校教育が参院選に生かされた」と答え

参院選 岐阜の2高校180人、本社アンケート

岐阜県可児市の県立可児高校と、岐阜市の私立岐阜聖徳学園高校の協力を得た。両校の生徒計186人に6月14日から7月14日にかけて、計4回、無記名のアンケートをした。欠席者らを除く171〜182人から回答を得た。投票意欲は回を追うごとに上がった。公示前の1回目は「必ず行く」「できれば行きたい」は58%。公示後（6月27日）は「期日前投票などに行った」を含めて69%に。7月4、5日の3回目は71%。結局、「投票に行きたい」との回答は83%に達した。政治への関心も「大いにある」「ある程度ある」が1回目の49%から、4回目

は57%に上がった。岐阜聖徳学園では6月、教員が候補者に扮した討論会を開いたり、模擬投票をしたりした。可児では今年3月に生徒の希望で模擬市長選を実施した。こうした主権者教育を含め、学校での学びの効果について4回目に尋ねると、今回の参院選で「大いに生きた」「ある程度生きた」が合わせて68%を占めた。若者の投票率を上げる方策について、自由記述で答えてもらったところ、「高校で模擬選挙をする機会が大切」「投票しなければ何も変わらないことを認識する」などの意見があった。（吉川真希）

左記2高校のアンケート回答者186人内訳

【岐阜聖徳学園高校生徒】
95人中72人が投票

投票率 75.8%

【可児高校生徒】
87人中79人が投票

投票率 90.1%

※岐阜聖徳学園高校の取り組み
高校教諭が候補者となつての模擬投票

積極的な主権者教育の必要性

朝日新聞2016.7.17

第3回 模擬選挙(R1.10.30)

- 数回にわたり高校生の中心メンバーと議員、立候補者（市職員）が一緒にミーティングを行い、政策内容や選挙公報、ポスターのデザイン等を検討。
- 1・2年生全員、PTA、市職員、議員が参加（高校主催で市選管と市議会が共催）

内容：

- ・ 議員による趣旨説明
- ・ 候補者3名による立会演説会
- ・ 生徒1、2年生全員が6人程度グループに分かれマニフェストの検証
- ・ 本番同様の投票用紙等を使って模擬投票
- ・ 生徒による開票



グループディスカッション



生徒による開票

子ども議会

※平成16年より毎年実施

- ・令和2年11月17日(火)
帝京大学可児小学校6年生
41名

- ・内容

①議会ってどんなところ？

②議会体験をしてみよう！

財政難の中、**どの事業を廃止するか意見を出し合い、
最後に採決を行う**

プールを夏だけ
にすれば??

バス料金を広く
負担してもらったら！



1) こども医療費助成の廃止
3) 市立図書館の廃止

2) お年寄り向け無料バスの廃止
4) 市民温水プールの廃止

どんな方法がいいか考えてみよう！



その他の方法？

「クーラーあきらめ扇風機で我慢」

僕たちが考える

財政策

可児市議会は二十三日、広見小学校の六年生百三十四人を招いた「子ども議会」を開催した。

「昔は景気が良かった十万人の地方都市。財政難になった今、どうやりくりすればいいか」という「どこかで聞いた話」を題材に、児童たちが意見をぶつけた。(遠藤康訓)

可児・広見小が「議会」

冒頭、川上文浩議長や議会事務局の職員が、市長と市議の役割、議会のルールなどを説明した。

模擬議会は、架空の「広見小学校市」が舞台。人口減少で税収が減ったが、お年寄りの増加で医療費は右肩上がり。財政難になったため「やめる事業」を決めなければならない、というテーマで子ども議員たちがアイデアを出し合った。

バスの敬老無料制度を廃止する案は「お年寄りには優しくし

ないと」、図書館廃館は「本を読みたいだけじゃなくて、いろんな人が集まる大切な場所」と反対

意見が噴出。「市営プールは土、日曜だけの営業でいい」「学校のクーラーはあきらめて扇風機で我慢しよう」という提案もあった。

市長席に座った森岸祥大君は「いつもここでいろいろなことを決めているんだと思ったら緊張した」、議長役の上野歩君は「市長が一番えらいと思っていただけど、議会では議長が一番力を持っていてみたい。仕組みがとても勉強になった」と感想を話した。



議場で意見をぶつけ合う児童ら＝可児市役所で

小学生のお仕事体験(R5.3)



可児商工会議所青年部の主催で、「小学生の楽しい職場 お仕事体験in可児」が開催され、子ども達に議会について知ってもらうため、可児市議会もブースを出展しました。

「議会ってどんなところ?」「議員はどんなことをしているの?」など集まってくれた子どもたちに、クイズをまじえて議会の仕組みについて議員が説明しました。

お金の使い道について皆で話し合い、「何をやるか」多数決で決めたりしました。



初！ 中学生議会(R4.8.20)

これまで高校生議会、小学生議会と若い世代との交流をしてきましたが、今年初めて、可児青年会議所主催で可児市・可児市議会協力のもと、「中学生議会」が開催されました。

(市長 教育長 議員13名 中学生9名 職員 が参加)

西可児中学校の3年生が主権者教育の一環として、授業で出された各クラスの意見や政策を参考に、1班、2班に分かれ、可児市が抱える地域課題や政策について考え、ユニークな案を提案しました。



1班「SNSでバズる！」

若い人たちが可児市に目を向ける施策について考えました。子どもたちにとって住みやすい街であるためにはどうすればいいか、若い人たちが集まってくるには？

まずは可児市の魅力を市内外に発信しよう！

「やってみた動画」

「100日後に話題になる市長」

議員などのやらないような人がやらないようなことをする、市民と議員との距離を縮められるのでは？



初！ 中学生議会(R4.8.20)

2班「将来の西可児を考える（空き家問題）」

高齢化が進む西可児地域が住みやすいきれいな街であってほしい！

地域課題である空き家問題を解決するには？

空き家相談のワンストップ窓口を作って売却・賃貸などに詳しい専門家や税金・法律に詳しい担当者を置いて空き家放置のリスクや支援策を周知しては？SNSでも発信。

更地にした場合、地域のコミュニティとして再生することで固定資産税を非課税としては？



議員は生徒の提案内容に対し質問する役でしたが、生徒たちは班のメンバーと相談しながら自分たちの意見をしっかりと答えていました。

地域の課題について仲間と考え、議場で自分たちの考えをわかりやすく伝えるという経験を通し、自らの地域のことを深く考えるきっかけとなったのではないのでしょうか。

市議員や市議が目の前に並ぶ緊張感の中で行われた中学生議会



「中学生議会」初開催

自分たちの地域のまちづくりを考えた上で、可児市の西可児中学の三年生九人が政策発表を行う「中学生議会」が二十日、市議会議場で行われた。可児青年会議所（JC）が主催者教育の一環で初めて開催。議場には市議員や市議が執行部側として並び、本物さながらの緊張感が漂う中でも、中学生は自らの意見を果敢に訴えた。（大橋貴史）

西可児中生 活発な意見

西可児中の生徒は二班に分かれ、七月上旬から準備に取り掛かった。身近にある話題から可児全体の問題点を探ろうと、一班では可児の知名度の低さに着目し、「会員制交流サイト（SNS）でバズる」を、二班では可児市全体の36%の空き家が同中学校区に集中している現状から「空き家問題」を議題に選んだ。

一班は「力を入れている発信内容」「どの世代をターゲットにしているか」「更新の頻度」などを執行部側に質問した。生徒たちは「調べるまで市のSNSがあるのを知らなかった」と知名度不足を指摘し、「可児に人を呼び込んで元気にする必要がある」と訴えた。その上で「可児は歴史のまち」とし、ゲームソフト内で街並みが再現できる「マインクラフト」を使ってPRすることを提案した。

一方で空き家問題という

硬派な議題に取り組んだ二年に宅地化が進んだこともあり、市内にある千七百一十九（昭和四十六）軒の空き家のうち三百八十



執行部側の答弁を真剣な表情で聞き入る西可児中の皆さん。いずれも可児市議会で

SNSや空き家問題など市に訴え

六軒が集中するなど深刻化している。

生徒は「空き家の軒数」「具体的な対策」「対策費としての市の予算」を聞いた。通学路に空き家があり、雑草で薄暗くなり、ゴーストタウンみたいになって怖い」と身近な問題として訴えた。

対策として空き家相談窓口の一元化、解体後の更地の土地への固定資産税の非課税を提案した。更地の活用方法については「地域で気軽に息抜きやコミュニケーションができる場所にしてほしい」と語り、公共の花畑を整備するように求めた。

市への質問や提案の後は、市議から通告なしでの質問も飛んだ。生徒たちは班内のメンバーと相談しながら、的確に自分の考えを答えていった。一班の長瀬くるみさん（二）は「難しい質問にも雰囲気にもまれずに仲間と協力して答えることができた」、二班の田口浩太郎さん（三）は「学校の授業とは違う本格的で専門的な議論ができた」と満足そうに話していた。

地域課題懇談会

- ・ 地元**医師会**の協力を得て、可児市議会が主催。（H26.7）
医師会長の講演会と『健康づくり』をテーマに意見交換を実施。
（議員19名 医師9名 高校生23名 職員11名 が参加）
- ・ 可児**金融協会**の協力を得て開催。（H27.6）
『どんな街に住みたいか・自分でできること』をテーマ意見交換。
（議員17名 金融協会13名 高校生66名 が参加）
可児高等学校以外にも可児工業高校や東濃実業高校にも参加生徒を拡大
- ・ 可児**商工会議所**と共催で開催。（H28.7）
意見交換テーマ「可児の担い手作り～企業が求める人材・高校生が求める企業～」
（議員20名 商工会議所21名 高校生58名 が参加）



医師会長の講演



グループワーク

実践事例 5

ママさん議会からの 施設への提言・要望

～建設中の駅前子育て拠点施設について～

ママさん議会

・ママさん議会ワークショップ (H28.7)

8月23日に開催予定のママさん議会の企画会議として開催。

高校生がファシリテーターとなり子育て世代の女性とともに可児市の子育て環境や、駅前に建設予定の拠点施設（現：子育て健康プラザmano）に関する意見交換を実施。子育て世代の女性10名 高校生3名 が参加。

・ママさん議会 (H28.8)

子育て拠点施設の運営に関する意見交換を行い、結果を報告。

子育て世代の女性の声を聴く機会をもうけることについての意見書を採択。

（市長 議員18名 子育て世代の女性27名 職員2名 が参加。）



ワークショップ



議場での発表

ママさん議会ワークショップ

平成28年7月24日

事前企画会議としてママさん議会で議論する
テーマを決定

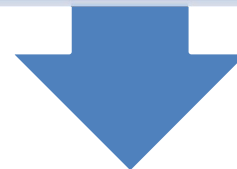


ママさん議会

子育て世代の女性の声を聞く機会
を設けることについての意見書

平成28年8月23日

意見書を全会一致で採択



執行部への提言

銀行ATMの設置や、施設
内で飲酒等ができるように
という要望が実現

子育て支援課(旧子育て拠点準備室)へ
ママさん議会で出た意見や提言を集約して伝達

子育て世代との意見交換会

- ・会場を駅前の子育て拠点施設に移して開催（H31.1）
 - ・子育て世代の女性25名が参加。
 - ・H30.5にオープンした子育て健康プラザ mano を実際に利用して良い点、悪い点を出し合った。その上で、どうしてもっと利用してみたいと思うかをワークショップ形式で話し合った。
 - ・会場では参加者手作りのお菓子と紅茶が振舞われ、和やかな雰囲気の中、活発な意見交換が行われた。
 - ・情報発信の方法や、開催される講座の多様化、外国籍の方や年配の方への配慮など様々な課題が明確となった。

駅前拠点施設



会場の様子





議会改革の推進と検証

議会基本条例の検証

- 令和4年度に議会基本条例の施行状況を検証するプロジェクトチームを立ち上げ。
- 議長を意見役、副議長を座長として、社会情勢の変化等を踏まえながら、現在の議会運営と議会基本条例の内容との検証・見直しを議員間で行った。
- 制定当初の背景や思いを振り返り、市民の負託に応えるためには議会運営を今後どうしていくのかなど、5回の会議にて活発な議論が行われた。

【改正内容】

- ✓ タブレットなどの情報通信技術の活用に関する規定
- ✓ 議員の個人情報の取扱いに関する規定の追加
- ✓ 市民の参加を積極的に促すなど議会報告会や議会広報活動の充実強化に関する規定の文言整備 など。



情報発信の取り組み

▼議会広報誌（議会だより）

年4回発行（5月・8月・11月・2月）

自治会を通して全戸配布

議会広報特別委員会の設置（H19.12）
先進地視察（H20.1、H20.7、H26.7）
随時見直し、リニューアル

- ・活字を大きめ、やや太めの明朝体に
- ・写真を多く取り入れる
- ・余白を作り、読みやすく
- ・裏表紙に地域の写真を掲載
- ・議員の取材コーナーを掲載
- ・**フルカラー化**（H25.5）
市の広報誌と併せて入札することでコストダウンを図る
- ・段組みを6段から4段へ変更
- ・表題を「議会のトビラ」へ（H27.5）
- ・二次元バーコードでYouTubeへ誘導
- ・**表紙を一般公募**（R4.5～）



広報誌以外の取り組み

▼ホームページ

議会のホームページ開設（H16.3）

議員紹介、議案や議決結果、会議録、議会の取り組みなどを公開

全面リニューアル（H28.4）

広報誌にあわせ「議会のトビラweb」とした。

Googleカレンダー^①を利用し、議長公務や会議日程の公表

Facebook^②と連動させ、タイムリーな情報を両方で掲載

会議の様子等を動画配信しているYouTube^③へリンク

議会だよりの音声データを掲載

▼YouTube

本会議および常任委員会（議案等）の動画配信

▼Instagram

令和4年11月～ 若い世代への情報発信として投稿開始

▼ケーブルテレビ

本会議の生放送
各種告知



議会の制作番組を放送

テレビ番組 10分×2本／年

議会放送番組

議会のトビラ 10 (R3.5放送)

【CTK放送】～議会報告会から直近までの活動を紹介～



FMらら 広報番組 議会のトビラ 「若者からみた議会・議会に望むこと」

高校生議会（令和4年3月25日開催）に参加された生徒4人をゲストに迎え、高校生議会に参加した感想や、成人年齢が引き下げられたことなどについて、広報部会の会長・副会長がインタビューしました。

令和4年5月30日（月）～
6月1日（水） 放送



事業別評価の実施

4つのサイクルによる取り組みを検証するため、事業別評価を実施(H29~31)

事業別評価シートの作成

- 1) 目的、主要内容を明記
- 2) 成果指標 参加者アンケートより
- 3) 評価項目を設定し、S,A,B,Cの4段階で評価
 - ・一次評価 議員による自己評価
 - ・二次評価 外部評価
- 4) 事業分析・改善点等

外部評価者

名城大学昇ゼミ生
NPO法人縁塾

※外部評価者の拡大が課題

対象事業

議会報告会、地域課題懇談会
高校生議会、ママさん議会等

可児市議会事業別評価シート(外部評価シート)

外部評価者	NPO法人縁塾
-------	---------

1. 事業概要(事業実施前に議会で記入)	
事業名	議会報告会
実施日	平成30年11月10日(土)・11日(日)・12日(月)
場 所	久々利・姫泊・広見・帷子・川合地区センター
目 的	議会全体として審議の内容や過程等を市民に説明するとともに、市民から意見を伺い、議会運営の改善、政策提言等に反映させていく。
主な内容	・議会全体を活用して、決算等に関する審議の内容や過程等をわかりやすく説明し、それに対する意見交換を行う。 ・今回の報告会のテーマ「災害への備え」に関する意見聴取・意見交換を行う。 ・その他、地域課題等について意見聴取・意見交換を行う。

2. 評価指標(事業実施前に議会で設定)		29年度秋			30年度春			30年度秋			
指標 内 容		単 位	前々回目標	前回目標	今回目標	前々回実績	前回実績	今回実績	前々回目標	前回目標	今回目標
成果指標	説明が分かり易かったと回答した割合	%	70	75	75	71	69	73			
	意見交換して良かったと回答した割合	%	70	75	75	73	69	76			
参考値	参加者数	人	100	100	100	117	86	68			

※成果指標(アウトカム)の設定が難しい場合は、参考値として活動指標(アウトプット)を記入。

3. 評価項目・評価結果①事業実施前に項目を議会で設定、②事業実施後に一次評価を議会で記入、③一次評価後に二次評価を外部評価者で記入

項目	一次評価(自己評価)		二次評価(外部評価)	
	評価理由等	評価	評価理由等	評価
事業の目的や内容、評価指標等を事前に全議員に共有していた。	条例に目的や内容、評価指標について説明された実施しているが、今後は評価軸をもっと十分確立した上で実効性があることが必要である。	A	B	専門員は全議員共々参画していた(一次評価より)、当日の役割分担も促していた。
市民の参加を促進するための周知活動は十分にを行った。	市役所と公民館など、CTK、FVから、チラシ(掲示、配布)などによりPRで周知を行ったが、参加結果からその方法等については改めて検証が必要である。	C	B	青年会への参加、ラジオ、その他の広報媒体でも活用していた。また、高齢(70年代代)には若い世代といえぬ広報が広く浸透していることが確認する必要がある。利用してよい広報媒体を選定するためのアンケート、SNSの活用なども必要。
議員からの説明は市民にわかりやすいものであった。	議会を用いての説明は、アンケート結果からもわかりやすいという評価を得た。	A	B	施設では市民の説明は聞き取りにくかった。簡易図(月見)は参加者が持ち帰りテープで読み取りながら使用した情報提供があったこと、今年度の市民参加(訪見)に関する委員の情報提供があるとは思う。
市民が話しやすい雰囲気や進行により、多々の意見聴取に繋がった。	少数グループで行うことで、話しやすさなどが意見を言える雰囲気を作れ、多くの意見聴取に繋がったものと考えられる。	B	B	園によってテーブルが近く、声がかたくないく時もあった。事務局が自由な会話の知り合い同士と調整があり、事務局参加者は発言しやすい場であった。経験者による一人、人が話しやすい環境を整えてくれたところも良かったと思う。また、出席者数が多い中で、話し合いが深まるような「箇条書き」をして出すこともあった。話し合っている手元でメモするのはどうグループ内に意識を集中させてそこに書き進め、スクリンでPC画面をつづつたこと。
時間配分、テーマ設定等は妥当であった。	全体の時間配分は概ね妥当であった。市民に身近で重要なテーマであったため、後半まで意見交換、意見聴取が行われた。	A	A	全員の理解はしづらいと感じ、当日の時間配分や各グループによって異なった印象。時間上での制限に対する市民参加者への説明と理解の取得が重要だった。自費制の課題、テーマ変更の時間を全体で区切ってもいいと思われた。
聴取した意見について、市民へ公表や、議会を取り組むべき課題が判断することの対応は行われた。	すべての意見をHDPで公表し、各常任委員会できり組みへべき課題を整理した。	A	A	意見のホームページ上の公開、各常任委員会での検討が行われている(一次評価より)。その後の取組見込みなど参加者および関係している市民に知らせるための課題。
総合評価	市民に直接議会の情報を提供できる機会であり、また直接市民の見解や地域の課題を知る機会でもあるが、参加者が少ないこと、準備期間や事前に関心のある市民が少ないことは今後の課題である。	B	B	前回同様参加者の年齢、性別の偏りが課題。また園によっては参加人数がかなり少なかった。休日に時間割を行い参加する方が多くて、花巻は午前中だけと考えられた。来年度は市の職員と共同に参加費用を減らすことを考える。例年6月に合わせた子ども世代と家族に誘引するイベントなど)、カフェで行いたい方法も考えられる。参加希望したいの意見を集める。議員仲間がいるので満足度は高い。評価指標は高い。市民参加は意見聴取できない人はいない。若く年代別の参加人数を見ていければと考える。当日参加できなかった年代別の意見を事前にタブレットで聞いて、データとして集めてみるなどの工夫があるといふ。

※評価区分は、S「期待以上」、A「期待どおり」、B「概ね期待どおり」、C「期待に満たない」の4段階

4. 事業の分析・次期改善点等(二次評価後に議会で記入)

参加者が少ないこと、年齢や性別の偏りが課題である。来でもらいたい世代の集まる団体に直接出向き説明やヒアリングをしたり、何かのイベントと合わせて行うなど、実施方法の改善について検討が必要である。

議員定数・報酬の検討

定数・報酬、常任委員会の体制・所管事務の根拠付け等の調査、研究を実施。

H23. 7 議会基本条例調査研究プロジェクトチーム提言

H25.10 議会改革調査研究プロジェクトチームを設置

H26. 7 最終報告を提出

H26. 9 議会活性化特別委員会を設置

H26.12 専門的知見の活用

H27. 5 市民との意見交換

H27. 6 最終報告を提出

H27. 9 議員定数報酬検討特別委員会を設置

H28. 2 全議員の活動量調査

H29. 4 専門家による審査検証

H29. 7 最終報告を提出

H29. 9 議会運営委員会にて検討プロジェクトチームを設置

H30. 5 議会報告会にて市民に中間報告

- ・3常任委員会の体制維持
- ・1委員会の定数は7名
- ・議長は委員会に属さない
- ・任期は1年
- ・委員会構成から定数22名
- ・全議員報酬月額1万増
- ・役職加算の再検討

議会の力が地域の 未来を創る

ご清聴ありがとうございました